

272950

392 (38)

官報

第六千七百七十二號

明治三十七年一月一日

月曜日

印刷局

勅令

朕臺灣總督府郵便及電信局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年一月二十九日

内閣總理大臣兼
内務大臣 伯爵桂太郎

勅令第十三號
臺灣總督府郵便及電信局官制中左ノ通改正ス

第三條第一項ヲ左ノ如ク改メ第二項ヲ削ル
臺灣總督府指定スル一等郵便電信局、二等郵便電信局ニ於テハ電話業務、電信電話建築事務ヲ兼掌ス

第四條第一項中「通信技師」及「通信技手」並第二項中「又ハ通信技手」ヲ削リ左ノ一項ヲ加フ
電信電話建築事務ヲ兼掌スル郵便電信局ニハ通信技師通信技手ヲ置ク

第六條中「及所轄二等郵便電信局長」ヲ削ル

第七條中「所轄二等郵便電信局長」ヲ臺灣總督ニ改ム

第十條 通信事務官ハ委任トシ專任二人ヲ以テ定員トス
通信技師ハ委任トシ專任二人ヲ以テ定員トス
三等郵便電信局長、三等郵便局長、二等電信局長ハ判任トス
通信書記、通信技手、通信書記補ハ判任トシ其ノ定員ハ通シテ五百二十四人トス

官報(日刊)第六一七二號 明治三十七年一月一日(昭和十二年一月一日改定)

通信事務官、通信事務官補、通信技師、通信書記、通信技手、通信書記補ハ臨時命令ヲ承ケ臺灣總督府民政部通信局ノ事務ヲ助ク

朕陸軍戰時給與規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年一月二十九日

陸軍大臣 寺內正毅

勅令第十四號
陸軍戰時給與規則中左ノ通改正ス

第四條 削除

第五條中「短期下士」給料ハ長期下士ノ給料ニシテ削ル

第六條 戰地ニ出發ノ者ハ其ノ出發ノ日ヨリ歸著ノ日又ハ給與停止ノ前日マテ准士官以上軍屬及前條士官ノ勤務ニ服スル者ニハ俸給五分ノ二下士以下ニハ給料四分ノ二ヲ増給ス

戰地ニ在ル者ハ戰地トナリタル日ヨリ給與停止ノ前日マテ前項ニ依ル
出戰又ハ戰備ノ姿勢ヲ完成シタルモノハ其ノ完成ノ日ヨリ戰地ニ出發ノ前日、戰地トナリタル日ノ前日又ハ給與停止ノ前日マテ第一項ノ區分ニ依リ俸給ハ五分ノ一、給料ハ四分ノ一ヲ増給ス

陸軍戰時給與規則ニ在ル者ハ其ノ出發ノ日ヨリ歸著ノ日又ハ給與停止ノ前日マテ陸軍戰時給與規則ニ在ル者ハ其ノ出發ノ日ヨリ戰地トナリタル日ノ前日又ハ給與停止ノ前日マテ前項ニ依ル

敵ノ俘虜トナリ又ハ生死不明トナリタル者ハ其ノ間本條ノ増給ヲ停止ス

第七條 准士官以上營外居住ノ下士以下及軍屬ニシテ前條第一項、第二項及第四項ノ増給ヲ受クル者ニハ手當トシテ一回限リ別表ノ金額ヲ給ス但第七

官報 號外

明治三十七年二月五日

金曜日

印刷局

省令

海軍省令第三號

海軍軍備後備役准士官以上及下士卒ニシテ服役満期ニ至ル者ハ當分ノ内該服役ヲ延期ス

明治三十七年二月五日

海軍大臣 男 露山 木村 兵衛

通信省令第五號

萬國電信條約第八條ニヨリ自今外國電報ニ對シ左ノ制限ヲナス

明治三十七年二月五日

通信大臣 大浦 兼武

- 一 本邦並韓國釜山仁川及京城ヨリ發スル私用ノ外國電報ハ普通ノ日本語英語又ハ佛語ヲ以テ之ヲ記載スルヲ要シ暗號ヲ用フルヲ禁ス但シ東京郵便局發源郵便局及神戸郵便局へ差出スモノニ限リ暗號ヲ用フルコトヲ許可スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ發信ノ際其暗號ニ日本語英語又ハ佛語ノ譯文ヲ添ヘ暗號帳ト共ニ之ヲ發信局ニ差出スヘシ
- 一 本邦ト在韓國本邦電信官署所在地ノ間及在韓國本邦電信官署所在地相互間ニ發着スル私用電報ハ普通ノ日本語英語又ハ佛語ヲ以テ之ヲ記載スルヲ要シ暗號ヲ用フルヲ禁ス
- 一 韓國政府所屬電信局ヨリ發シテ韓國内本邦局ニ著シ又ハ本邦局ヲ經由シテ外國ニ著スル私用電報ハ普通ノ日本語英語又ハ佛語ヲ以テ記載シタルモノヲ除ク外本邦電信線上ニ於テハ其傳送ヲ取扱ハス
- 一 本邦内線路並韓國釜山京城及仁川間本邦政府線路ヲ經過スル一切ノ電報ハ誤差運送又ハ不達ニ關シ發信人ノ危險承諾ニアラサレハ之ヲ取扱ハス

官報號外 明治三十七年二月五日(明治三十一年三月三十一日第三種郵便物認可)

官報

第六千七百七十七號

明治三十七年二月六日

土曜日

印刷局

1345

勅令

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ極密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ軍事郵便物ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月五日

内閣總理大臣兼	伯爵桂 太郎
海軍大臣	男爵山本權兵衛
農商務大臣	男爵清浦奎吾
大藏大臣	男爵曾根龍助
外務大臣	男爵小村壽太郎
陸軍大臣	寺內正毅
司法大臣	波多野敬直
逓信大臣	大浦兼武
文部大臣	久保田謙

勅令第十九號

第一條、軍事郵便ノ取扱ヲ開始シタル場合ニ於テハ左ニ掲クルモノヲ軍事郵便物ト爲スコトヲ得

官報 (日刊) 第六一七七號 明治三十七年二月六日 (第三十三號第三種郵便物認可)

一 戰時又ハ事變ニ際シ戰地若ハ之ニ准スヘキ地ニ在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊、軍艦、水雷艇、軍術軍人又ハ軍屬ヨリ發スル郵便物

二 戰時又ハ事變ニ際シ戰地又ハ之ニ准スヘキ地ニ在ル者ニシテ當該軍術ノ許可ヲ得タル者ヨリ發スル郵便物

三 前二號ニ掲クル者ニ宛テ發スル郵便物

第二條 前條第一號及第二號ニ依リ軍事郵便物ハ其ノ料金を免除ス

第三條 第一條第三號ニ依リ軍事郵便物ハ料金を完納ノモノニ限ル其ノ料金を納又ハ不足ノモノハ差出人ニ還付シ不納額ノ二倍ヲ徵收ス

第四條 軍事郵便物ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設ケルコトヲ得

第五條 軍事郵便物取扱ニ關スル損害賠償ハ命令ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第六條 條約ニ依リテ取扱フ郵便物ニハ第二條乃至第五條ヲ適用セス

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治二十七年勅令第六十七號ハ之ヲ廢止ス

省令

陸軍省令第五號
陸軍現役將校同相當官及准士官ニシテ現役年限年給ニ滿ツル者ハ當分現役ヲ繼續セシム

陸軍豫備役後備役將校同相當官准士官及現役豫備役後備役下士兵卒 屯田兵下士兵卒及六週間現役補充兵ニシテ服役期限滿ツル者ハ當分其ノ服役ヲ延期ス

明治三十七年二月六日
陸軍大臣 寺內正毅

告示

宮内省告示第七號
明治三十一年三月本省告示第十一號ヲ以テ拂下ヲ停止シタル箇所ノ内左記ノ箇所ニ對スル停止ヲ解キ相當代價ヲ以テ該地ノ各關係者ハ拂下候條拂下望ムハ

同年本署告示第一號御料地特賣規程ニ依リ本年三月三十一日マテニ御料局
出願スルニ付
價額特賣規程第三條ニ於ケル出願期限ハ本文ノ期限ニ從フモノトシ共ノ拂
下願者ハ東京市麹町區三年町御料局へ差出スヘキモノトス
明治三十七年二月六日 宮内大臣 子爵田中光顯

御料局名古屋支廳飯田出張所	御料局名古屋支廳藤岡出張所	御料局名古屋支廳飯田出張所	御料局名古屋支廳藤岡出張所
尾張丹羽池野 古山 宮土山 真山 尾張丹羽池野 古山 宮土山 真山	尾張丹羽池野 古山 宮土山 真山 尾張丹羽池野 古山 宮土山 真山	尾張丹羽池野 古山 宮土山 真山 尾張丹羽池野 古山 宮土山 真山	尾張丹羽池野 古山 宮土山 真山 尾張丹羽池野 古山 宮土山 真山
右三筆以下一國地トス其合股別ハ 尾張丹羽池野 一〇〇 古山 一〇〇 宮土山 一〇〇 真山 一〇〇	右三筆以下一國地トス其合股別ハ 尾張丹羽池野 一〇〇 古山 一〇〇 宮土山 一〇〇 真山 一〇〇	右三筆以下一國地トス其合股別ハ 尾張丹羽池野 一〇〇 古山 一〇〇 宮土山 一〇〇 真山 一〇〇	右三筆以下一國地トス其合股別ハ 尾張丹羽池野 一〇〇 古山 一〇〇 宮土山 一〇〇 真山 一〇〇
尾張丹羽池野 一〇〇 古山 一〇〇 宮土山 一〇〇 真山 一〇〇	尾張丹羽池野 一〇〇 古山 一〇〇 宮土山 一〇〇 真山 一〇〇	尾張丹羽池野 一〇〇 古山 一〇〇 宮土山 一〇〇 真山 一〇〇	尾張丹羽池野 一〇〇 古山 一〇〇 宮土山 一〇〇 真山 一〇〇

官報

號外

明治三十七年二月六日

土曜日

印刷局

省令

逓信省令第六號

軍事郵便規則左ノ通相定ム

明治三十七年二月六日

海軍大臣 男爵山本權兵衛
陸軍大臣 寺内 正毅
逓信大臣 大浦 兼武

軍事郵便規則

第一條 軍事郵便物ニ關シ本規則ニ定メタルモノノ外ハ普通郵便ニ關スル規
定ヲ準用ス

第二條 軍事郵便物ハ差出人ニ於テ其ノ表面ニ軍事郵便ノ四字ヲ記載シ尙ホ
公用ニ屬スルモノハ公用ノ二字ヲ朱記スヘシ

第三條 戦地若ハ之ニ準スヘキ地ニ在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊、軍艦、水雷
艇、軍衛、軍人、軍屬ニ宛テ又ハ該地ニ在ル者ニシテ當該軍衛ノ許可ヲ得タル
者ニ宛テ發スル軍事郵便物ハ左ノ種類ニ限ル

一 通常郵便物

第一種 書状

第二種 郵便葉書

第三種 毎月一回以上刊行スル定期刊行物

第四種 書籍、印刷物、寫眞

二 小包郵便物

第四條 戦地若ハ之ニ準スヘキ地ニ在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊、軍艦、水雷
艇、軍衛、軍人、軍屬ニ該地ニ在ル者ニシテ當該軍衛ノ許可ヲ得タル者ヨリ
發スル軍事郵便物ハ左ノ種類ニ限ル

一 通常郵便物

第一種 書状

第二種 軍事郵便葉書、私製葉書、明治三十六年逓信省令第六十一
號私製葉書式規則ニヨルモノ

二 小包郵便物

第五條 第三條及第四條ニ定ムル軍事郵便物ノ種類ハ時宜ニ依リ之ヲ増減ス
ルコトアルヘシ

第六條 公用軍事郵便物ハ書留、別配達、配達證明、留置及約束郵便トナスノ外
特殊取扱トナスコトヲ得ス

第七條 私人軍事郵便物ニシテ第三條ニ依ルモノハ書留、留置及約束郵便又
第四條ニ依ルモノハ留置トナスノ外特殊取扱トナスコトヲ得ス但シ野戰郵
便局又ハ艦船郵便所ニ留メ置クヘキ郵便物ニ對シテハ留置通知ヲ請求スル
コトヲ得ス

第八條 軍事郵便物ノ差出人ハ其ノ郵便物ノ差立前ニ限り名宛變更又ハ取戻
ヲ其ノ引受局所ニ請求スルコトヲ得但シ之カ爲メ事務ニ差支アルトキハ拒
絶スルコトアルヘシ

第九條 軍事郵便物ノ別配達並ニ軍事小包郵便物ノ轉送及還附ニ關シテハ別
ニ料金を徴收セス

第十條 第三條ニ依ル軍事郵便物ハ普通郵便局ノ取扱中ニ亡失又ハ毀損シタ
ル場合ニ限り普通郵便ニ關スル規定ニ依リ其ノ損害ヲ賠償ス

第四條ニ依ル軍事郵便物ニ對シテハ總テ其ノ損害ヲ賠償セス

逓信省令第七號

軍事郵便爲替貯金規則左ノ通相定ム

明治三十七年二月六日

海軍大臣 男爵山本權兵衛
陸軍大臣 寺内 正毅
逓信大臣 大浦 兼武

第一章 通則

第一條 本規則ニ於テ軍事郵便爲替又ハ軍事郵便貯金ト稱スルハ戰時若ハ事變
ニ際シ野戰郵便局若ハ艦船郵便所ニ於テ引受ヲ取扱ヒタル通常郵便爲替又
ハ預入ヲ取扱ヒタル通常郵便貯金ヲ云フ

第二條 軍事郵便爲替ノ取扱ヲ爲ス野戰郵便局又ハ艦船郵便所ト雖モ時宜ニ
依リ軍人、軍屬以外ノ者ヨリ請求スル軍事郵便爲替ノ取扱ヲ拒絕スルコト
アルヘシ

第三條 軍事郵便爲替又ハ軍事郵便貯金ニ關シ本規則ニ定メタルモノノ外ハ郵
便爲替規則又ハ郵便貯金條例施行細則ヲ準用ス

第二章 軍事郵便爲替

第四條 軍事郵便爲替ハ當該局所ニ於テ差出人ヨリ現金ヲ受領シ郵便爲替貯
金管理所又ハ同支所ニ於テ爲替證書ヲ發行シ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス

第五條 軍事郵便爲替ハ證書一枚ノ金額ニ制限ヲ付セス

官報號外 明治三十七年二月六日(第三十三號第三種郵便物認可)

第六條 野戰郵便局又ハ艦船郵便所ニ於ケル軍事郵便爲替ノ取扱ニ關シテハ爲替料及其他ノ料金ヲ徵收セズ

第七條 軍事郵便爲替ノ差出人ハ爲替金拂渡書ヲ携渡通知及其ノ他ノ特殊取扱ヲ請求スルコトヲ得ズ但シ振出請求書誤記ノ場合ニ於テ郵便ニ依リ訂正通知ノ請求ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 軍事郵便爲替ノ振出ヲ請求セントスル者ハ振出請求書ニ現金ヲ添ヘ當該局所ニ差出し其ノ受領證書ヲ領受スヘシ但シ爲替金拂渡局所ノ指定ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項但書ニ依リ拂渡局所ノ指定ヲ省略シタルモノニ對シテハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ指定ス

第九條 軍事郵便爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ爲替金拂戻請求書ニ爲替證書又ハ爲替金受領證書ヲ添ヘ普通郵便局所ヲ經由シ之ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ差出スヘシ但シ請求書經由局所以外ノ郵便局所ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ其ノ局所名ヲ請求書ノ餘白ニ附記スヘシ

第三章 軍事郵便貯金

第十條 軍事郵便貯金ノ預ケ人ニ對シテハ貯金登記簿通知書ヲ發行セズ

第十一條 軍事郵便貯金ノ預ケ人其ノ所持ノ通帳餘白ナキニ至リタルトキ又ハ毀損汚損シテ不判明トナリタルトキ若ハ之ヲ亡失シタルトキハ野戰郵便局又ハ艦船郵便所ニ其ノ事實ヲ證明シ別ニ通帳ノ交付ヲ受ケ其ノ通帳ヲ以テ引續キ軍事郵便貯金ノ預入ヲ爲スコトヲ得

第十二條 前條ノ繼續通帳ニ對シテハ普通郵便局所ニ於テ貯金ノ預入又ハ拂戻ヲ取扱ハス

第十三條 繼續通帳ノ交付ヲ受ケ軍事郵便貯金ノ預入ヲ爲シタル者普通郵便局所在地ニ到リタルトキハ原通帳及繼續通帳ヲ可成速ニ普通郵便局所ニ差出し再度通帳ノ交付ヲ請求スヘシ

第十四條 軍事郵便貯金ノ預ケ人貯金ノ拂戻ノ公債證書ノ購入ノ再度通帳ノ交付、通帳利子記入、通帳名前書換及異動届出等ヲ要スルトキハ普通郵便局所ヲ經由シ之ヲ請求又ハ届出ヲ爲スヘシ

二月九日ノ諸
新訂記

1349
1350

二月九日、諸新聞記事

○日露交渉の顛末

(小村外相の報告)

小村外務大臣は昨夜八時東京各新聞社長及び其代表者を外務省に招き日露交渉の顛末につき左の如く報告したり而して此

報告は各國語に翻譯の上列國へ通牒したる報告書と同一のもの也

韓國の獨立及領土保全を維持し併せて該半島に於ける帝國の優越なる利益を擁護するは帝國の康寧と安全との爲め緊要缺くべからざるものなり故に如何なる行爲たるを問はず引も韓國の地位を不安ならしむるものは帝國政府に於て之を看過すること能はず然るに露國は其清國との公約並に累次列國へ與へたる保障の存在するに拘はらず依然滿洲を占領し進んで韓國境域に於て侵略的行動を敢てするに至れり若し滿洲にして露國の併呑に歸せん乎韓國の獨立は素より支ふべからず故に帝國政府は速に露國と交渉を開き兩國利害の觸接點たる滿韓兩地に於て相互の利益を友誼的に調理し以て東亞の和局を恒久に維持せんことを期し昨年七月下旬露國政府に向つて右の希望を披瀝し其賛同を求めたるに露國政府も欣んで之に同意する旨を回答せり依て帝國政府に於ては八月十二日在露栗野公使をして協商の基礎

として大要左の如き條件を露國政府へ提出せしめたり

- 一、清韓兩國の獨立及領土保全を尊重することを相互に約すること
 - 二、清韓兩國に於ける各國商工業の爲めに機會均等の主義を維持すること
 - 三、露國は韓國に於ける日本の優越なる利益を承認し日本は滿洲に於ける鐵道經營に付露國の特殊なる利益を承認し併せて第一項の主義に反せざる限り上記の利益を保護する爲めに必要の處置を執り得ることを相互に承認すること
 - 四、韓國に於ける改革及善政のため助言及助力を與ふるは日本の專權に屬することを露國に於て承認すること
 - 五、今後韓國鐵道を滿洲南部に延長し以て東清鐵道及山海關、牛莊線に接續せしめんとすること
- あるも之を阻礙せざるべきことを露國に於て約すること

當時帝國政府に於ては交渉の進行に便にして一日も速に時局を解決せんことを期せるが故に露國に於て直接に露國當局者と商議を爲さんことを希望したるも露國政府は同國皇帝陛下の外遊其他種々の理由の下に他迄之を拒みたるが故に不得已東京に於て之を爲すことに決し而して露國政府よりは漸く十月三日を以て其對案を提出せり該對案に於て露國は清國の主權及領土保全を尊重するものと並に同國に於ける各國商工業上機會均等の主義を維持することを約するを拒み滿洲及其沿岸は全然日本の利益範圍外なることを日本に於て承認せんことを求め而して韓國に關しては日本の自由行動權に種々の制限を附し例せば韓國に於ける日本の利益保護上必要の場合には出兵の權あるを認むるも同時に韓國領土の一部たりとも之を軍器上の目的に使用することを許さず甚しきに至りては北緯三十九度以北の韓國領域を以て中立地帯と爲さんことを提議せり

帝國政府は若し露國に於て滿洲併呑の意思なくんば何故に清國の主權及領土保全を尊重するが如き露國自ら累次聲明したる主義と全然其揆を一にする約款を協商中に挿入することを難んずるやの理由を解すること能はず故に露國政府が之を拒絶したること

は帝國政府をして益々其挿入の必要を感せ

1349
1350

しめ且帝國は滿洲に於て現下既に商業上重大の利益を有するのみならず將來益を發達を爲すべきの望極めて渺ならず加ふるに政治上に於ては其韓國との關係よりして一層緊切なる利益を有するを以て全然之を我利益の範圍外と認むること能はざるは勿論なるが故に斷然之を拒絶するに決せり仍て帝國政府は右の意見を始めとし其他露國提案に對し一々必要の修正意見を提出し中立地帯に關しても若し之を設くるに於ては滿韓境界の兩側に跨り一定の距離を測するを至當なりとし各五十「キロメートル」に亘る地區を以て之に充つるの議を提出し東京に於て數次折衝の結果終に十月三十日を以て我確定修正案を露國政府へ提出し爾後數回に亘り其回答を促したるに道次も亦回答大に遷延し漸く十二月十一日に至り之を接受せり然るに該回答に於て露國は滿洲に關する條項を削除し本協商を以て全然韓國に關するものとし而して韓國領土を軍略上の目的に使用せざること及中立地帯に付きては原主義を其儘維持せり然れども右の如く滿洲を本協商の範圍外に置くことは帝國政府が當初交渉を開きたるの主旨即ち滿韓兩地に於ける日露の利益を友誼的に調理し兩國

衝突の原因を一掃せんとするの主旨に反するを以て帝國政府は十二月二十一日露國政府へ向つて其再考を求め又韓國に關しては前記の如く其領土使用上の制限を削除せんことを重ねて要求し中立地帯に付きては露國に於て之を滿洲に跨らしむること從不同意なる以上韓國にも亦之を設けざること素より當然なるが故に其全廢を提議せり右に對し露國政府は一月六日を以て回答を與へたるが韓國に關しては依然上記二項を露國原提議の儘存置することを主張し之を條件として滿洲に關し日本又は他國が其滿國との現行條約の下に獲得したる權利及特權(但居留地設定を除く)の享有を阻礙せざるべきことを協約中に挿入することを承諾せり然れども右は**滿洲の領土保全に關し毫も言及する處なく**而して領土保全の確約に伴はざる前記の保證は實際に於て殆ど何等の價值なきものなり何となれば條約上の權利は主權と共に存亡するものにして若し露國に於て滿洲を併呑せば各國が清國との條約に因り享有する權利及特權も之と同時に消滅すべきものなればなり故に帝國政府に於ては他迄露國をして滿洲の領土保全を尊重することを約請

せしむるの必要を認め居留地設定に關する制限は日清間に締結せられたる追加通商航海條約に抵觸するを以て之を削除し又韓國に關しては毫も讓歩の餘地なきを以て我修正を堅持するに決し一月十三日重ねて露國の再考を求め**爾來數次其回答を促したるも露國政府は曾に回答を與へざるのみならず之を與ふべきの時期すら指定せず**之を要するに帝國政府は終始穩和と公平とを以て政綱とし露國政府に向つても毫も難きを責むることなく唯同政府が累次且任意に聲明したる主義を承認せんことを求むるに過ぎざるも同政府は飽迄之を峻拒し加入るに屢次不當に回答を遷延しつゝ一方に於ては水陸の軍備を充實し其大兵は既に韓國境上を壓せり帝國政府は實に衷心平和を念ふに切なるが故に隱忍以て今日に至りたるも露國の行動は帝國政府をして遂に公協に望を絶ち談判を斷絶するの已むを得ざるに至らしめたり

官報

號外

明治三十七年二月九日

火曜日

印刷局

勅令

朕露西亞帝國商船拿捕免除ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月九日

内閣總理大臣兼
內務大臣 伯爵桂 太郎
海軍大臣 男爵山本權兵衛
外務大臣 男爵小村壽太郎

勅令第二十號

第一條 本令施行ノ際帝國港灣内ニ在ル露西亞帝國商船ハ明治三十七年二月十六日迄ニ該港灣ニ於テ其ノ貨物ヲ陸揚シ又ハ船積シテ帝國ヲ去ルコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依リ帝國ヲ去リタル露西亞帝國商船ハ帝國官廳ノ證明シタル船舶書類ニ依リ前條ノ期限前ニ其ノ貨物ヲ陸揚シ又ハ船積シテ帝國港灣ヲ發航シ該港灣ヨリ其ノ最近本國港、租借港又ハ到達港ニ到ルノ途中ナルコト明カナルモノニ限リ之ヲ拿捕セス但シ一旦本國港又ハ租借港ニ立寄リタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 明治三十七年二月九日以前帝國港灣ニ向テ外國港灣ヲ發航シタル露西亞帝國商船ハ帝國港灣ニ入り該港灣ニ於テ直ニ其ノ貨物ヲ陸揚シテ帝國ヲ去ルコトヲ得
前項ニ依リ帝國ヲ去リタル露西亞帝國商船ニ關シテハ前條ノ規定ヲ適用ス

宣統三年二月九日(明治三十七年二月九日) 宣統三年二月九日(明治三十七年二月九日)

第四條 輸出禁止品、戰時禁制品、戰時禁制品又ハ戰時禁制品ヲ搭載スル露西亞帝國商船ニ關シテハ本令ノ規定ヲ適用セス
附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕外交官領事官等臨時増員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月九日

内閣總理大臣 伯爵桂 太郎
外務大臣 男爵小村壽太郎

勅令第二十一號

第一條 戰時又ハ事變ニ際シ在外公館職員定員令第一條ノ定員ノ外ニ臨時左ノ職員ヲ置クコトヲ得
特命全權公使及辦理公使ハ通シテ四人
公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官、公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ハ通シテ十人
總領事及領事ハ通シテ五人
外務書記生及外務通譯生ハ通シテ二十人
本條ニ依リ置キタル職員ハ在外公館ニ屬セシメス臨時ノ職務ニ從事セシムルコトヲ得

第二條 戰時又ハ事變ニ際シシテカ爲外國在勤ヲ免シタル外交官、領事官、貿易事務官、公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ハ在外公館職員定員令第二條ノ定員外ト爲スコトヲ得

朕公使館領事館費用條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

御名 御璽

明治三十七年二月九日

外務大臣 男爵小村壽太郎

勅令第二十二號
公使館領事館費用條例中左ノ通改正ス
第七條ノ二 戰時又ハ事變ニ際シ本任所ナキニ至リタル場合ニ於テ從前ノ兼
任國又ハ兼任地ニ在勤ヲ命セラレタル外交官、領事官及外務書記生ノ在勤
俸ハ當該本任所ノ在勤俸ニ依ル但シ別ニ在勤俸ノ定アルモノハ此ノ限ニ在
ラス
前項ノ外交官、領事官及外務書記生ニシテ當該本任所ニ在勤シタル者ナル
トキハ轉勤シタルモノト看做ス
第一項ノ場合ニ於テ本任所ヲ引揚ケタル公使一時從前ノ兼任國ニ駐在スル
トキハ其ノ駐在中從前ノ本任所ノ在勤俸及前條第二項ノ在勤増俸ヲ給ス

官報

第六千八百八十號

明治三十七年二月十日

水曜日

印刷局

勅令

朕戰時又ハ事變ニ際シ官吏ニ非スシテ陸軍ノ事務ニ從事スル者ノ待遇ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月九日

内閣總理大臣 伯爵桂 太郎
陸軍大臣 寺内正毅

勅令第二十二號

戰時又ハ事變ニ際シ官吏ニ非スシテ陸軍ノ事務ニ從事スル者ハ其ノ職務ニ應ジ委任官又ハ判任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

朕海軍治罪法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月九日

内務大臣 伯爵桂 太郎
海軍大臣 男爵山本權兵衛

勅令第二十四號

海軍治罪法ハ臺灣ニ之ヲ施行ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕臨時海軍軍法會議及海軍合圍地軍法會議ニ於ケル主理、錄事、海軍警査ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月九日

内閣總理大臣 伯爵桂 太郎
海軍大臣 男爵山本權兵衛

勅令第二十五號

第一條 各臨時海軍軍法會議及各海軍合圍地軍法會議ニ於ケル主理、錄事ノ定員左ノ如ク定ム

主理 三人

錄事 三人

第二條 各臨時海軍軍法會議及各海軍合圍地軍法會議ニ海軍警査ヲ置ク其ノ定員ハ五人以内トス

第三條 前二條ノ職員ハ總テ本職アル者ヲ以テ兼務セシム

官報(日刊) 第六一八〇號 明治三十七年二月十日(第三種郵便物認可)

一九二

1354

第六一八〇號 明治三十七年二月十日

Table with multiple columns and rows of text, likely a list of names or locations. Includes terms like '上野', '大宮', '川口'.

Table with multiple columns and rows of text, likely a list of names or locations. Includes terms like '赤松', '新井', '東川'.

陸軍省告示第三號 明治三十七年二月十日 陸軍大臣 寺内正毅

一本五

官報

號外

明治三十七年二月十日

省令

陸軍省令第六號 陸軍兵籍規則左ノ通改正ス

陸軍大臣 寺内正毅

- 第一條 陸軍兵籍ハ分テ第一種及第二種兵籍トス
- 第二條 陸軍兵籍ハ分テ第一種及第二種兵籍トス
- 第三條 現役將校同相當官准士官主官候補生主計候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官現役下士官卒諸生徒及依託學生ノ兵籍ハ所屬軍隊官衙學校ノ所管トシ休職停職豫備役後備役將校同相當官ノ兵籍ハ本籍地所管ノ師團司令部休職停職豫備役後備役上長官士官准士官豫備役後備役下士官卒及補充兵ノ兵籍ハ本籍地所管ノ師團司令部又ハ豫備隊司令部ノ所管トス
- 第四條 豫備役後備役將校同相當官准士官及下士官卒ニシテ現役ノ職ニ就キタル場合ニ在テハ其ノ兵籍ハ當該軍隊官衙學校ノ所管トス
- 第五條 第一種兵籍ハ初テ官ニ任セラレタルトキ其ノ所屬軍隊官衙學校ニ於テ編製シ其ノ陸軍省ニ差出スヘシ
- 第六條 第二種兵籍ハ入隊又ハ入校ノトキ當該部隊ニ於テ編製スヘシ但シ第一補充兵補重輪及第二補充兵ニ在テハ初テ召集ニ應シタルトキ補重輪卒タル第一補充兵ニ在テハ初テ役ニ就キタルトキ聯隊司令部ニ於テ其ノ兵籍ヲ編製スルモノトス
- 第七條 兵籍編製ノ場合ニ於テ兵籍中戸籍ニ關スル事項ハ戸籍簿本ニ依リ登記スヘシ
- 第八條 兵籍ハ第一種及第二種ニ分チ各編製シテ兵籍簿ト爲スヘシ
- 第九條 兵籍中戸籍ニ關スル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ本人ヨリ一箇月以内ニ兵籍所管廳ニ届出ヘシ但シ服役條例ニ依リ届出ツヘキ事項ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十條 前項ノ届出ニシテ本人ノ年齢及婚姻ニ係ルトキハ戸籍抄本ヲ添付スヘシ
- 第十一條 兵籍所管廳ハ兵籍上異動ヲ生シタル兵籍ノ訂正補正ヲ爲シ第一種兵籍ニ在リテハ其ノ事項トキハ戸籍抄本ヲ添付スル陸軍省ニ報告スヘシ

官報號外 明治三十七年二月十日(明治三十五年第三種郵便物認可)

明治三十七年二月十日 水曜日

印刷局

第七條 豫備役後備役等ニ依リ兵籍ハ所管ノ變更スル兵籍ハ其ノ舊所管廳ニ其ノ兵籍ヲ新所管廳ニ送附シ新所管廳ニ於テ兵籍ノ訂正ヲ爲スヘシ

第十二條 免官免役者ハ退役トナリシ者ハ後備役若ハ補充兵役ヲ終リシ者又ハ死亡シタル者ノ兵籍ハ之ヲ兵籍簿ヨリ除去スヘシ但シ恩給又ハ扶助料ノ支給上必要アルモノハ別册トシテ保存スヘシ

附則

本令ハ明治三十七年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ兵籍簿及其ノ用紙ハ當分ノ之ヲ應用スルモノトシテ舊

附表第一(豫備役ノ兵籍)

兵籍何兵		所管何師團(何部)		本籍(何府(何郡(區)市町(村)番地)		氏名(家長(次男(弟)月主)		出生(何年月日)		死亡(何年月日)	
兵籍何兵	族(平民)	本籍	市町(村)番地	氏名	何某	出生	何年月日	死亡	何年月日	出生	何年月日
公傷公病	何年月日何何地ニ於テ何々ニ依リ何傷何病ヲ受ケ	公傷公病	何年月日何何地ニ於テ何々ニ依リ何傷何病ヲ受ケ	父	何某	母	何某	妻	何某	子	何某
陸軍出身	何年月日何何者出仕	陸軍出身	何年月日何何者出仕	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某
前ノ履歷	何年月日何何々ニ依リ免出仕	前ノ履歷	何年月日何何々ニ依リ免出仕	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某
履歷	何月日士官候補生トシテ何隊入隊	履歷	何月日士官候補生トシテ何隊入隊	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某
第一種陸軍兵籍	何月日何兵少尉(○)何月日正八位(○)	第一種陸軍兵籍	何月日何兵少尉(○)何月日正八位(○)	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某
第一種陸軍兵籍	何月日何國留學何月日出發何月日歸朝	第一種陸軍兵籍	何月日何國留學何月日出發何月日歸朝	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某
第一種陸軍兵籍	何月日何國留學何月日出發何月日歸朝	第一種陸軍兵籍	何月日何國留學何月日出發何月日歸朝	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某
第一種陸軍兵籍	何月日何國留學何月日出發何月日歸朝	第一種陸軍兵籍	何月日何國留學何月日出發何月日歸朝	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某
第一種陸軍兵籍	何月日何國留學何月日出發何月日歸朝	第一種陸軍兵籍	何月日何國留學何月日出發何月日歸朝	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某	兄弟	何某

附表第一(科任西ノ内紙)		九寸	
一	役前ハ陸軍出身後ニ係ルモノヲ指シ但生徒中ノ實績ハ記載セズ	二	陸軍出身後ノ事項ヲ逐年順次ニ記載スヘシ若シ其年間記スヘキ事項ナキト雖モ空
三	任免補職等ノ月日ハ辭令ノ日ヲ記載スルモノトス	四	動員後ノ陸軍ハ本署スヘシ且出陣軍ニ編入セラレタル者外國戰ニ當リテハ内國陸軍發着
五	陸軍出身後ニ係ルモノハ其始終ノ月日又ハ外國ノ編成ニ編入セラレタル者ハ内國陸軍發着	六	陸軍出身後ノ事項ハ本署ニ係ルモノハ其始終ノ月日又ハ外國ノ編成ニ編入セラレタル者ハ内國陸軍發着
七	陸軍出身後ニ係ルモノハ其始終ノ月日又ハ外國ノ編成ニ編入セラレタル者ハ内國陸軍發着	八	陸軍出身後ニ係ルモノハ其始終ノ月日又ハ外國ノ編成ニ編入セラレタル者ハ内國陸軍發着

訓令	
海軍省訓令第一號	日露交戰中戰時禁制品トナスヘキモノノ左ノ通定ス
第一	左ニ掲ケル物品ハ敵地ニ經由シ若ハ之ニ到達スヘキ場合又ハ敵ノ陸海軍ニ到達スヘキ場合ニ於テ之ヲ戰時禁制品トス
第二	陸軍軍人ノ制服及武器具甲鐵板艦船ノ製造及修繕ノ材料並以上ノ物品ニ屬セシト雖モ戰時禁制品ニ供スヘキ一切ノ物品
第三	左ニ掲ケル物品ハ敵ノ陸海軍ニ到達スヘキ場合又ハ敵地ニ到達スルモノニシテ其ノ到達地ノ如何ニ依リ敵ノ陸海軍用ニ供スルモノト認ムヘキ場合ニ限リ之ヲ戰時禁制品トス
第四	糧食飲料用品馬具馬糞車輛ノ石炭木材通貨金銀塊並電信電話及鐵道建設ノ材料
第五	第三項ニ掲ケタル物品中其ノ分量及性質ニ依リ特ニ當該船舶ノ自用ニ供スルモノト明ナリト認ムヘキモノハ之ヲ戰時禁制品ト爲スノ限ニ在ラス

官報

號外

明治三十七年二月十日

水曜日

印刷局

勅令

朕捕獲審檢所及高等捕獲審檢所開設ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月十日

内閣總理大臣 伯爵桂 太郎
海軍大臣 男爵山本權兵衛
外務大臣 男爵小村壽太郎

勅令第二十七號

捕獲審檢所及高等捕獲審檢所ヲ開設ス

捕獲審檢所ハ之ヲ佐世保ニ置ク

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官報號外 明治三十七年二月十日(明治三十五年三月三十一日第三種郵便物認可)

告示

海軍省告示第一號

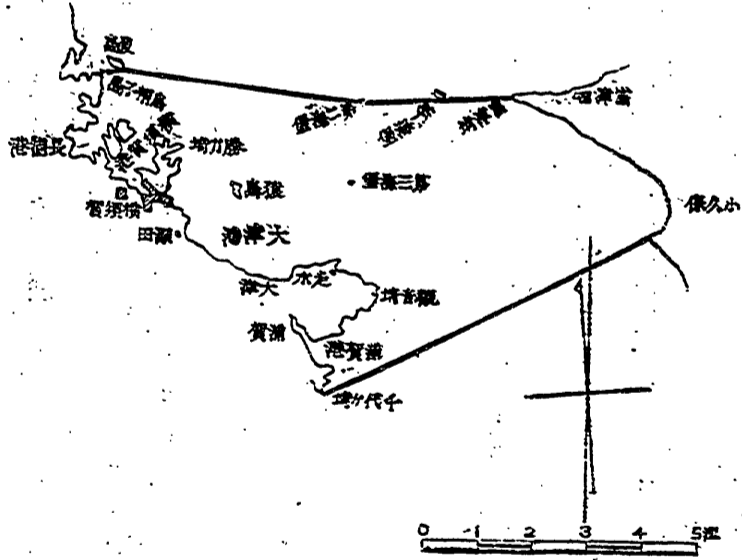
明治三十七年二月十日ヨリ左ノ區域ヲ東京灣口防禦海面ト定ム

明治三十七年二月十日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

浦賀港ノ南千代ヶ崎安房國小久保鼻ヲ連接シタル線ト宮津崎第二海堡及夏島ヲ連接シタル線トニ依リ包圍セラレタル海面

東京灣口防禦海面區域圖



海軍省告示第二號

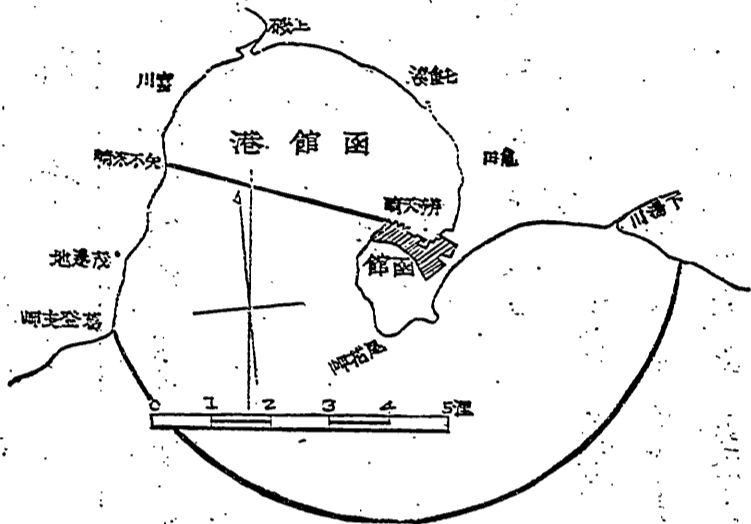
明治三十七年二月十日ヨリ左ノ區域ヲ函館灣防禦海面ト定ム

明治三十七年二月十日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

辨天崎ト矢不來崎ヲ連接シタル線ト辨天崎ヲ中心トシ葛登支岬マテノ距離ヲ半徑トシテ畫キタル圓トヲ以テ包圍スル海面

函館灣防禦海面區域圖



海軍省告示第二號

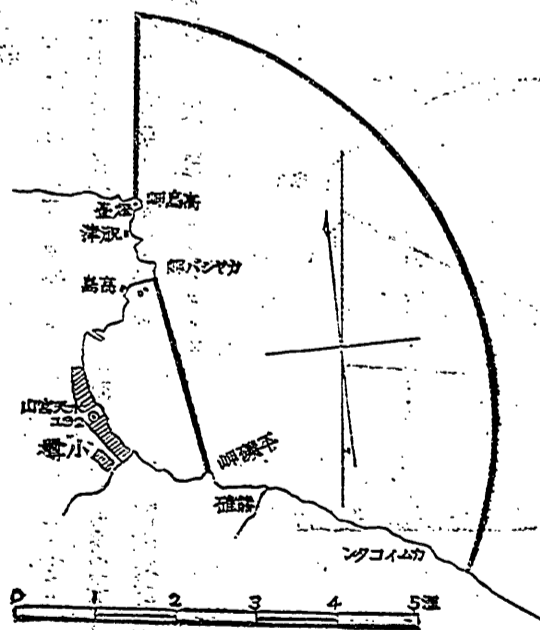
明治三十七年二月十日ヨリ左ノ區域ヲ小樽灣防禦海面ト定ム

明治三十七年二月十日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

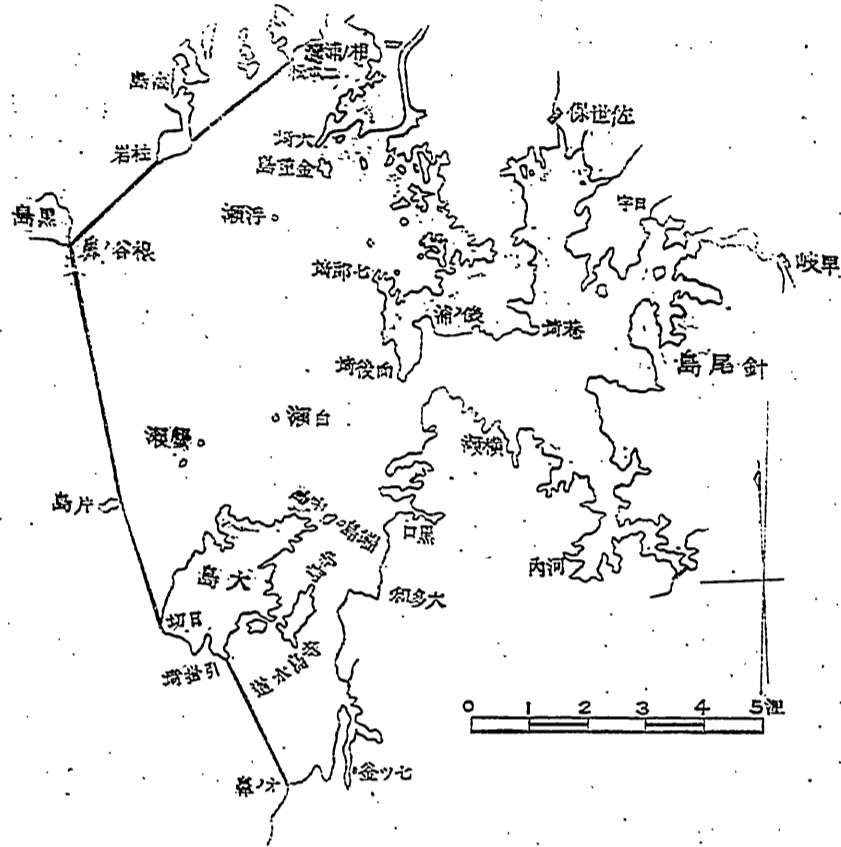
高島岬ヲ通スル南北線ト小樽市内水天宮山(標高一九二)ヲ中心トシ五海里ノ半徑ヲ以テ畫キタル圓ト「カヤシバ」岬平磯岬ノ接合線トヲ以テ包圍スル海面

小樽灣防禦海面區域圖



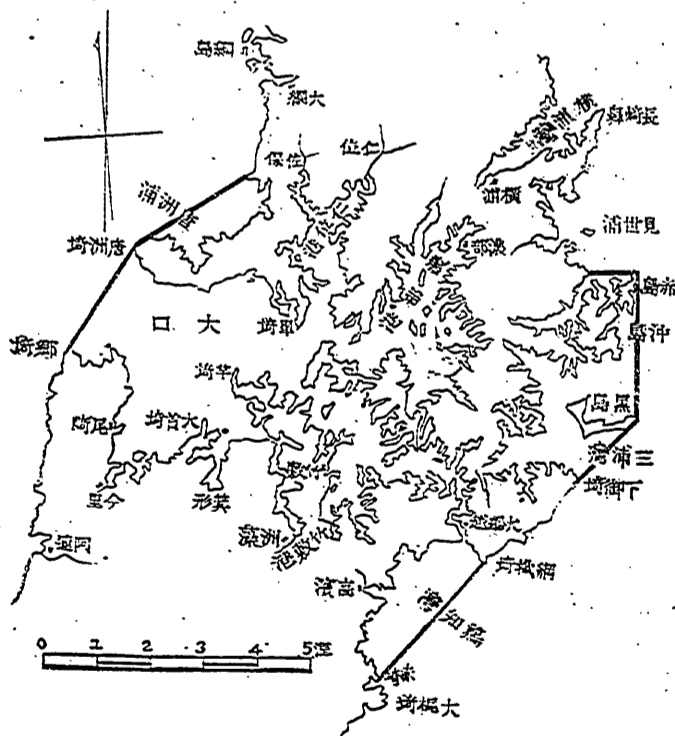
官報號外 明治三十七年二月十日

佐世保軍港防禦海面區域圖



海軍省告示第四號
 明治三十七年二月十日ヨリ左ノ區域ヲ佐世保軍港防禦海面ト定ム
 海軍大臣 男爵山本權兵衛
 寺島水道オノ鼻大島南端引掛崎ノ接合線大島ノ南西端日切片島ノ東端黒島根谷ノ鼻高島ノ南西柱岩相ノ浦灣口二本松ノ接合線以內ノ海面但シ大村内灣ヲ除ク

竹敷要港防禦海面區域圖



海軍省告示第五號
 明治三十七年二月十日ヨリ左ノ區域ヲ竹敷要港防禦海面ト定ム
 海軍大臣 男爵山本權兵衛
 竹敷要港境域内ニ屬スル水面但シ雜知灣ニ在テハ網掛崎ヨリ赤崎ニ至ル線以內

1383

1362

海軍省告示第六號

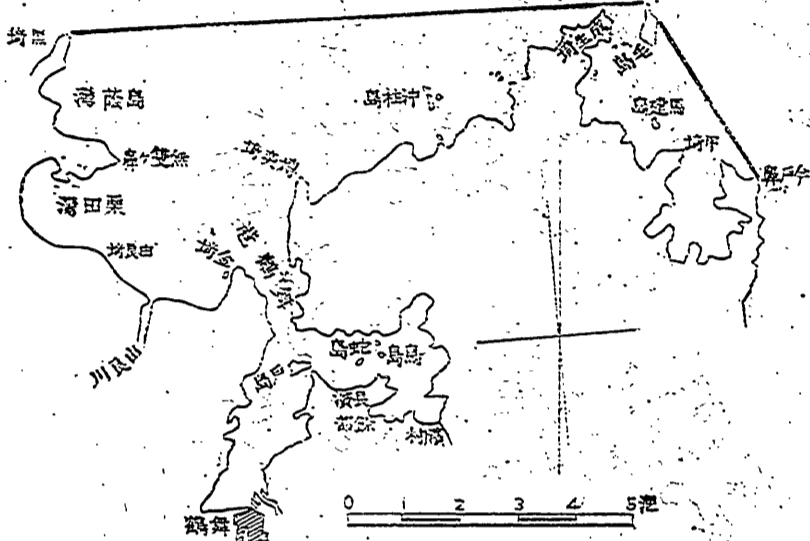
明治三十七年二月十日ヨリ左ノ區域ヲ舞鶴軍港防禦海面ト定ム

明治三十七年二月十日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

舞鶴軍港境域内ニ屬スル水面

舞鶴軍港防禦海面區域圖



彙報

陸海軍

東京海防防禦海面出入船舶心得 横須賀鎮守府司令長官ハ東京海防防禦海面出入船舶心得ヲ左ノ通定メタリ(海軍省)

東京海防防禦海面出入船舶心得

- 第一條 海内ニ向テ航行セムル船舶ハ浦賀港南側千代ヶ崎ト安房國小久保島トヲ連接シタル線ニ達スル前、海内ニ向テ航行セムル船舶ハ磯島ト第二海峯トヲ連接シタル線ニ達スル前ニ於テ行進ヲ停止シ船名符字信號及左ノ信號ヲナシ水路警備船ノ至ルヲ待ツヘシ
一 汽船ニ在テハ要路水先信號ヲ掲ケ汽笛ヲ連吹スヘシ
一 帆船ニ在テハ要路水先信號ヲ掲ケ汽笛ヲ連吹スヘシ
第二條 第一條ノ船舶ニ對シ水路警備船ハ萬國船舶信號ノ回答旗ヲ掲ケ其ノ應答トナス
水路警備船其ノ船舶ニ對シ任意ノ行動ヲ許サズトスルキハ前項ノ回答旗ヲ降下ス
第三條 水路警備船ハ萬國船舶信號中英國船舶ニ使用スル特別信號ノ水先信號(上下赤ノ旗)ヲ其ノ標上ニ掲揚ス
第四條 防禦海面内ヲ航行スル船舶ハ五海里以上ノ速力ヲ用フヘカラス
第五條 防禦海面内ニ於テハ浦賀港ヲ除ク外船舶ノ投錨スルヲ禁ス
第六條 防禦海面内ニ於テハ一切ノ漁撈採捕ヲ禁ス
第七條 防禦海面ハ要路ニ屬シ一時船舶ノ通航ヲ禁止スルコトアルヘシ
第八條 總噸數二十噸未満又ハ積石二百石未満ノ船舶及端舟其ノ他標權ノミヲ以テ運轉シ又主トシテ標權ノミヲ以テ運轉スル舟ハ第一條ノ規定ニ關セズ通航スルコトヲ得
但シ必要ニ應ジ一時其ノ通航ヲ制限シ又ハ禁止スルコトアルヘシ
第九條 第七條ニ掲ケル船舶ニシテ防禦海面令第三條ヲ犯シ夜間防禦海面ヲ通航スルモノアルトキハ水路警備船ヨリ砲撃セラルコトアルヘシ

函館海防防禦海面出入船舶心得 横須賀鎮守府司令長官ハ函館海防防禦海面出入船舶心得ヲ左ノ通定メタリ(海軍省)

- 第一條 函館港ニ入港セムル船舶ハ尾花岬ト高登支岬トヲ連接スル線上ニ達スル前、出港セムトスルモノハ舞天崎ト先不來崎トヲ線ニ達スル前ニ於テ行進ヲ停止シ船名符字信號及左ノ信號ヲナシ水路警備船ノ至ルヲ待ツヘシ
一 汽船ニ在テハ要路水先信號ヲ掲ケ汽笛ヲ連吹スヘシ
一 帆船ニ在テハ要路水先信號ヲ掲ケ汽笛ヲ連吹スヘシ
第二條 前條ノ船舶ニ對シ水路警備船ハ萬國船舶信號ノ回答旗ヲ掲ケ其ノ應答トナス
第三條 水路警備船ハ萬國船舶信號中英國船舶ニ使用スル特別信號ノ水先信號(上下赤ノ旗)ヲ其ノ標上ニ掲揚ス
第四條 防禦海面ヲ航行スル船舶ハ五海里以上ノ速力ヲ用フヘカラス
第五條 防禦海面内ニ於テ投錨スルコトヲ禁ス
第六條 防禦海面内ニ於テハ一切ノ漁撈採捕ヲ禁ス
第七條 排水量二十噸ニ達セズ又ハ汽力積載船艇舟及其ノ他ノ小舟ニシテ防禦海面ヲ出入セムルモノハ第一條ノ規定ニ關セズ水路警備船ノ側ニ至リテ検査ヲ受ケ其ノ指示ニ從テ行動スヘシ
第八條 前條ノ船舶ニシテ適當ナル者ニハ一定ノ記載及標札ヲ附與シ任意ニ防禦海面ヲ出入セシム
第九條 前條ノ標札及記載ハ他人ニ貸與シ又ハ隠匿スルコトヲ得ズ又之ヲ紛失シタルトキハ速ニ届出スヘシ

小樽海防防禦海面出入船舶心得 横須賀鎮守府司令長官ハ小樽海防防禦海面出入船舶心得ヲ左ノ通定メタリ(海軍省)

- 第一條 小樽港ニ入港セムル船舶ハ防禦海面外三海里ノ處ヨリ速力ヲ緩メ水天宮山ヲ西南西ニ

官報

號外

明治三十七年二月十日

水曜日

印刷局

詔勅

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本國皇帝ハ忠實
 勇武ナル汝有衆ニ示ス
 朕茲ニ露國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海軍ハ宜ク全力ヲ極メ
 テ露國ト交戦ノ事ニ從フヘク朕カ百僚有司ハ宜ク各其ノ
 職務ニ率ヒ其ノ權能ニ應シテ國家ノ目的ヲ達スルニ努力ス
 ヘシ凡ソ國際條規ノ範圍ニ於テ一切ノ手段ヲ盡シ遺算ナカ
 ラムコトヲ期セヨ
 惟フニ文明ヲ平和ニ求メ列國ト友誼ヲ篤クシテ以テ東洋ノ
 治安ヲ永遠ニ維持シ各國ノ權利利益ヲ損傷セスシテ永ク帝
 國ノ安全ヲ將來ニ保障スヘキ事態ヲ確立スルハ朕夙ニ以テ
 國交ノ要義ト爲シ且暮敢テ違ハサラムコトヲ期ス朕カ有司
 モ亦能ク朕カ意ヲ體シテ事ニ從ヒ列國トノ關係年ヲ逐フテ
 益々親厚ニ赴クヲ見ル今不幸ニシテ露國ト覺端ヲ開クニ至
 ル豈朕カ志ナラムヤ
 帝國ノ重ヲ韓國ノ保全ニ置クヤ一日ノ故ニ非ス是レ兩國累
 世ノ關係ニ因ルノミナラス韓國ノ存亡ハ實ニ帝國安危ノ繫
 ル所タレハナリ然ルニ露國ハ其ノ清國トノ明約及列國ニ對
 スル累次ノ宣言ニ拘ハラズ依然滿洲ニ占據シ益々其ノ地步
 ヲ鞏固ニシテ終ニ之ヲ併吞セムトス若シ滿洲ニシテ露國ノ
 領有ニ歸セン乎韓國ノ保全ハ支持スルニ由ナク極東ノ平和
 亦素ヨリ望ムヘカラス故ニ朕ハ此ノ機ニ際シ切ニ妥協ニ由
 テ時局ヲ解決シ以テ平和ヲ恆久ニ維持セムコトヲ期シ有司
 ヲシテ露國ニ提議シ半歲ノ久シキニ互リテ屢次折衝ヲ重ネ

シメタルモ露國ハ一モ交讓ノ精神ヲ以テ之ヲ迎ヘス曠日彌
 久徒ニ時局ヲ解決ヲ遷延セシメ陽ニ平和ヲ唱道シ陰ニ海陸
 ノ軍備ヲ増大シ以テ我ヲ屈從セシメムトス凡ソ露國カ始ヨ
 リ平和ヲ好愛スルノ誠意ナルモノ毫モ認ムルニ由ナシ露國
 ハ既ニ帝國ノ提議ヲ容レズ韓國ノ安全ハ方ニ危急ニ瀕シ帝
 國ノ國利ハ將ニ侵迫セラレムトス事既ニ茲ニ至ル帝國カ平
 和ノ交渉ニ依リ求ムトシタル將來ノ保障ハ今日之ヲ旗鼓
 ノ間ニ求ムルノ外ナシ朕ハ汝有衆ノ忠實勇武ナルニ倚賴シ
 速ニ平和ヲ永遠ニ克復シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ
 期ス

御名 御璽

明治三十七年二月十日

- | | | |
|---------|---------|----|
| 内閣總理大臣兼 | 伯爵桂 | 太郎 |
| 海軍大臣 | 男爵山本權兵衛 | |
| 農商務大臣 | 男爵清浦奎吾 | |
| 大藏大臣 | 男爵曾根荒助 | |
| 外務大臣 | 男爵小村壽太郎 | |
| 陸軍大臣 | 寺內正毅 | |
| 司法大臣 | 波多野敬直 | |
| 逓信大臣 | 大浦兼武 | |
| 文部大臣 | 久保田讓 | |

官報號外 明治三十七年二月十日(明治三十五年第三種郵便物認可)

官報 號外

明治三十七年二月十日

水曜日

印刷局

○訓令

内務省訓令第二號

臺灣總督府 廳府縣

露西亞帝國ニ對シ戰ヲ宣スルニ至リタルハ帝國政府ノ深ク遺憾トスル所ナリ然リト雖其ノ臣民ニ對シテハ固ヨリ秋毫ノ敵意ヲ有スルニ非ス其ノ現ニ帝國ニ在ル者ハ引續在留スルコトヲ得ヘク新ニ渡來スル者ハ敢テ之ヲ拒マス其ノ帝國ヲ去ラントスル者モ亦毫モ之ヲ否マス其ノ身體生命名譽及財產ハ我法令ノ規定スル所ニ從ヒ之ヲ保護シ彼等ヲシテ安堵シテ平和適法ノ業務ニ從事シ進ニテ帝國裁判所ノ救濟ヲ請フコトヲ得セシムヘシ然モ是レ帝國政府ノ彼等ニ對スル好意ニ出ル耳若夫レ取締上必要ナル行政處分又ハ軍事上ノ目的ニ出ツル陸海軍官憲ノ處分ヲ爲スニ就テハ帝國政府ハ何等ノ制限ヲ受クルコトナク身體生命名譽及財產ノ保障ト雖之カ爲ニ其ノ幾分ヲ狹少セララルコトヲ妨ケス其ノ必要ヲ認ムルニ方リテハ或ハ退去ヲ命スルコトアルヘシ或ハ退去ヲ禁スルコトアルヘシ或ハ移轉旅行ヲ禁止若ハ制限スルコトアルヘシ例ヘハ彼等ニシテ帝國政府ノ好意ニ背キ其ノ本國ノ爲ニ軍事上ノ利便ヲ計リ又ハ帝國ノ安寧秩序若ハ風俗ヲ紊シ其ノ他苟モ帝國ノ利益ヲ侵害スヘキ行爲ヲ爲ス者アルニ於テハ法令ノ規定ニ依リテ處分セララルル外直ニ之ヲ帝國外ニ退去セシムルコトヲ得ルハ論ヲ俟タズ貧寒ニシテ生計ヲ營ムコト能ハス公費ノ救助ヲ要スル者ノ如キニ至リテモ亦其ノ在留ヲ禁止スルコトアルヘシ之ヲ要スルニ帝國ニ在留セル露西亞帝國臣民ニ對シテハ帝國ノ利益ト抵觸セサル限ニ於テ可成丈完全ノ保護ヲ與ヘント欲スルナリ宜ク此ノ意ヲ體シテ彼等ヲ處遇シ併テ帝國臣民ヲシテ誤解ナカラシムル様注意スヘシ

明治三十七年二月十日

内務大臣 伯耆桂太郎

官報號外 明治三十七年二月十日(第三種郵便物認可)

明治三十七年二月十日

水曜日

印刷局

訓令

文部省訓令第二號
 今回露國ニ對シテ戰ヲ宣セラレタル趣旨ハ炳乎トシテ宣戰ノ詔勅ニ明ナリ此ノ時ニ當リテ國民擧テ忠勇ノ精神ヲ勵マン瀟愴ノ熱誠ヲ捧ケテ陸海軍ノ後援ヲナスハ固ヨリ當然ノコトニ屬ス而シテ國民カ戰ノ進行ニ懸念シ平素ノ業務ヲ顧ミルノ進ナキニ至ルカ如キハ忠愛ノ至情ニ出ツルトスルモ決シテ嘉ニスヘキニアラス殊ニ教育ニ從事スル者ハ此ノ間ニ處シテ能ク平素ノ沈著ナル態度ヲ變スルコトナク熱心誠意益々其ノ職務ニ盡サンコトヲ努メサル可ラス思フニ今回ノ事變タル其ノ關スル所極メテ大ニシテ其ノ結果ハ遠ク我國家ノ將來ニ及フヘシ是ヲ以テ教育者ハ能ク學生生徒ヲ訓誨シテ青年子女カ國家ニ負フ所ノ責任ハ將來益々重ク加フルニ至ルコトヲ知ラシメ他年此ノ重大ナル責任ヲ盡ス所以ハ修學時代ニ於テ専心一意心身ヲ修養ヲ務ムルニアルコトヲ體認セシムヘシ故ニ一勝一敗ノ報ニ接シテ常度ヲ失スルカ如キコトナク又他日戰捷ノ結果平和ヲ克復スルニ至ルモ國家ノ前途ハ益々多事ニシテ今日ノ學生生徒カ成業ノ後國家ニ盡スコトノ急々容易ナラサルヲ深ク覺ラシムヘシ今ヤ露國ト事ヲ構フルモ固ト是レ平和ヲ永遠ニ克復スルカ爲メナレハ學生生徒カ客氣ニ驅ラレ露國民ニ對シテ嘲罵ヲ逞クシ延キテ他ノ外國民ニマテ惡感ヲ懷カシムルカ如キコトナカラシムルハ子女ノ教育上最モ注意ヲ要スル所ナリ

我忠勇ナル陸海軍人カ國家ノ爲メニ生還ヲ期セスシテ出征スルニ當リテハ瀟愴ノ同情ヲ表センカ爲メ之ヲ送迎スルハ固ヨリ妨ケナキモ學生生徒ヲシテ深業ヲ履シ貴重ナル時間ヲ費サシムルカ如キハ忠勇ナル軍人カ在學ノ子女ニ期待スル所ニアラサルヘキヲ以テ宜シク注意スヘキコトナリ

學生生徒カ自ラ節約シ得タル所ノ資財ヲ獻シテ軍費ノ一端ニ供セントスルハ忠愛至情ヨリ出ツルモノニシテ嘉ニスヘキコトナルノミナラス節儉ノ美風ヲ養フニ於テ益アリトス然レトモ獻金ヲナサンカ爲メニ特ニ父兄ニ要求スルカ如キコトアラハ教育ノ方面ヨリ見テ喜ブヘキコトニアラサルノミナラス國家モ亦斯ル獻金ヲ嘉納スヘキニアラス教育ノ任ニアルモノハ學生生徒ヲシテ能ク此ノ意ヲ體セシムヘキナリ

學校職員ニシテ召集ニ應スル場合ニハ其ノ同僚職員ハ進ンテ應召者ノ職務ヲ分擔スヘク管理者ハ經費ノ許ス範圍内ニ於テ成ルヘク優待ヲナス等便宜ノ處分ヲ執ルヘキナリ

官報號外 明治三十七年二月十日 (三月三十一日第三種郵便物認可)

之ヲ要スルニ陸海軍人カ死ヲ決シテ戰ヒ艱苦缺乏ヲ忍ヒテ國家ニ報ユルノ精神ヲ移シテ以テ教育ニ從事スル者及ヒ教育ヲ受クル者ノ精神ト爲サンコトハ本大臣ノ切ニ望ム所ナリ教育ノ任ニアル者ハ宜シク平時ニ於ケルモリモ一層奮勵シテ職務ニ努力スヘシ是レ實ニ國家カ教育者ニ期待スル所ニシテ有事ノ時ニ於テ教育者カ國家ニ報スル所以ノ道モ亦之ニ外ナラサルナリ

明治三十七年二月十日
 文部大臣 久保田謙

告示

遞信省告示第九十三號
 當分ノ內清國北京天津芝罘及牛莊ハハ萬國聯合小包ニ依ルノ外小包郵便物遞送ノ途ナシ

明治三十七年二月十日
 遞信大臣 大浦兼武

遞信省告示第九十四號
 外征軍隊等ニ宛テ内地ヨリ發スル私用軍事郵便物ハ當分ノ內左ノ種類ノ通常郵便物ノ外之カ引受ヲ爲サス

第一種 書狀
 第二種 郵便葉書
 第三種 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル日刊定期刊行物

明治三十七年二月十日
 遞信大臣 大浦兼武

遞信省告示第九十五號
 本年ニ遞信省令第六號軍事郵便規則ニ依リ差出ス軍事郵便物ニハ差出人及受取人ノ所屬部隊軍艦水雷艇軍衙ノ名稱又ハ官職名所在地名等ヲ成ルヘク詳細明瞭ニ記載スヘシ

明治三十七年二月十日
 遞信大臣 大浦兼武

官報

號外

明治三十七年二月十日

水曜日

印刷局

○訓令

内務省訓令第二號

臺灣總督府 廳府縣

露西亞帝國ニ對シ戰ヲ宣スルニ至リタルハ帝國政府ノ深ク遺憾トスル所ナリ然リト雖其ノ臣民ニ對シテハ固ヨリ秋毫ノ敵意ヲ有スルニ非ス其ノ現ニ帝國ニ在ル者ハ引續ク在留スルコトヲ得ヘク新ニ渡來スル者ハ敢テ之ヲ拒マス其ノ帝國ヲ去ラントスル者モ亦毫モ之ヲ否マス其ノ身體生命名譽及財產ハ我法令ノ規定スル所ニ從ヒ之ヲ保護シ彼等ヲシテ安堵シテ平和適法ノ業務ニ從事シ進ンテ帝國裁判所ノ救濟ヲ請フコトヲ得セシムヘシ然モ是レ帝國政府ノ彼等ニ對スル好意ニ出ル耳若夫レ取締上必要ナル行政處分又ハ軍事上ノ目的ニ出ツル陸海軍官憲ノ處分ヲ爲スニ就テハ帝國政府ハ何等ノ制限ヲ受クルコトナク身體生命名譽及財產ノ保障ト雖之カ爲ニ其ノ幾分ヲ狭少セララルコトヲ妨ゲス其ノ必要ヲ認ムルニ方リテハ或ハ退去ヲ命スルコトアルヘシ或ハ退去ヲ禁スルコトアルヘシ或ハ移轉旅行ヲ禁止若ハ制限スルコトアルヘシ例ヘハ彼等ニシテ帝國政府ノ好意ニ背キ其ノ本國ノ爲ニ軍事上ノ利便ヲ計リ又ハ帝國ノ安寧秩序若ハ風俗ヲ紊シ其ノ他苟モ帝國ノ利益ヲ侵害スヘキ行爲ヲ爲ス者アルニ於テハ法令ノ規定ニ依リテ處分セララルル外直ニ之ヲ帝國外ニ退去セシムルコトヲ得ルハ論ヲ俟タズ貧窮ニシテ生計ヲ營ムコト能ハス公費ノ救助ヲ要スル者ノ如キニ至リテモ亦其ノ在留ヲ禁止スルコトアルヘシ之ヲ要スルニ帝國ニ在留セル露西亞帝國臣民ニ對シテハ帝國ノ利益ト抵觸セサル限ニ於テ可成丈完全ノ保護ヲ與ヘント欲スルナリ宜ク此ノ意ヲ體シテ彼等ヲ處遇シ併テ帝國臣民ヲシテ誤解ナカラシムル様注意スヘシ

明治三十七年二月十日

内務大臣 伯耆桂太郎

官報號外 明治三十七年二月十日(明治三十七年三月三十一日第三種郵便物認可)

官報

第六千八百二十二號

明治三十七年二月十三日

土曜日

印刷局

勅令

朕戰時又ハ事變ニ際シ臨時外務省ニ屬ラ置クノ件ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月十二日

内閣總理大臣 伯爵桂 太郎
外務大臣 男爵小村壽太郎

勅令第三十二號

戰時又ハ事變ニ際シ臨時外務省ニ屬十二人ヲ置クコトヲ得

朕明治三十七年勅令第八十八號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月十二日

内閣總理大臣兼 伯爵桂 太郎
司法大臣 波多野敬直

勅令第三十三號

明治三十七年勅令第八十八號左ノ通改正ス

戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタル巡查看守ニハ其ノ間休職ヲ命ス
ルコトヲ得
前項休職中ノ日數ハ在職年數ニ算入ス

朕陸軍軍屬從軍服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月十二日

陸軍大臣 寺內正毅

勅令第三十四號

陸軍軍屬從軍服制

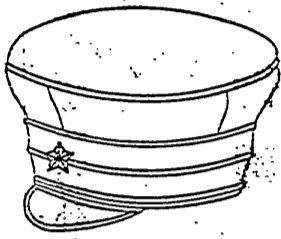
陸軍軍屬タル文官ノ從軍服制左ノ如シ

官報 (日刊) 第六一八二號 明治三十七年二月十三日 (印刷局第三十三號印刷)

二三三

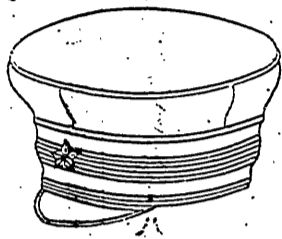
帽

高等官六等以下



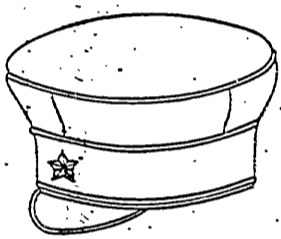
地質 黒紙
横帯 黒色綵
大線 二條幅七分
小線 二條幅一分
眼庇 黒革
下部高サ一寸七分
各線ノ間隔ヲ一分トス

高等官三等乃至五等



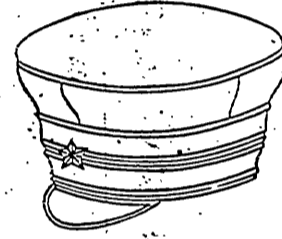
地質 黒紙
横帯 同上
大線 二條幅七分
小線 二條幅一分
眼庇 同上

判任官



地質 同上
横帯 同上
大線 一條幅一寸七分
眼庇 同上

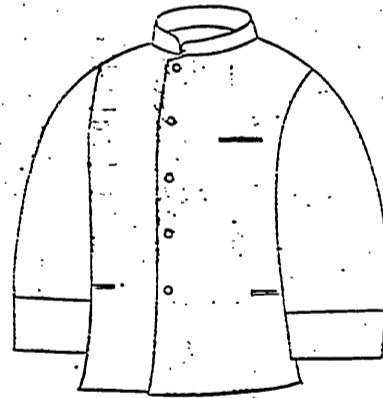
高等官二等以上



地質 黒紙
横帯 同上
大線 二條幅七分
小線 二條幅一分
眼庇 同上


衣

高等官六等以下



冬衣 濃紺絨
夏衣 茶褐色ノ絨又ハ布
金銀線色圓窓五分五厘五釐又ハ六釐ヲ附ス
如 海軍陸軍ニ同リ金銀ハ金色トス


判任文官



冬衣 濃紺絨
夏衣 茶褐色ノ絨又ハ布
金銀線色圓窓五分五厘五釐又ハ六釐ヲ附ス
如 海軍陸軍ニ同リ金銀ハ金色トス


前

郵便長



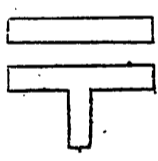
金銀 銀色
中心ヨリ尖端ニ至テ五分

郵便長



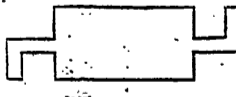
金銀 銀色
中心ヨリ尖端ニ至テ五分

郵便長



金銀 銀色
縦横一寸

電信吏

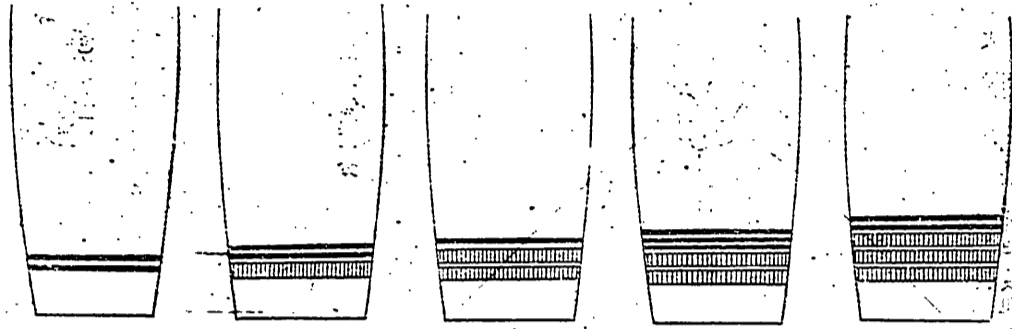


金銀 銀色
大線幅四分長サ六分
小線幅一分縦横外邊ニテ各二分五厘

官制 第六十二号 明治三十二年三月廿三日 第三号 官制 第六十二号

軍 種 衣

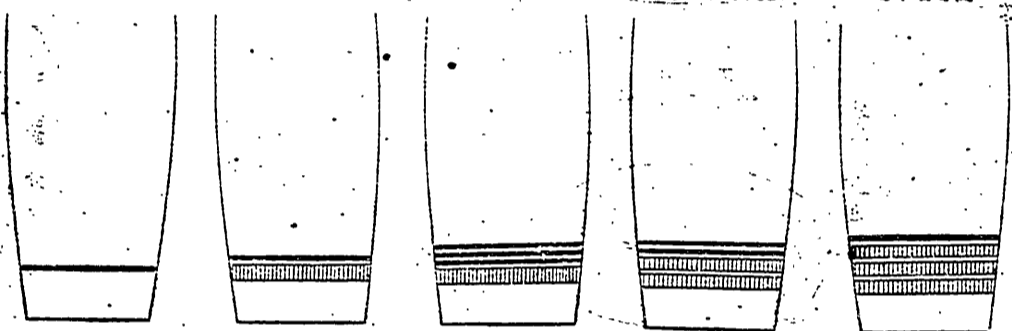
上等二官任判 等七官等高 等五官等高 等三官等高 等一官等高



大線 黒色 幅五分
(夏衣ニ在リテハ白色ヲス)
小線 黒色 幅一分

同(上) 下方ノ線ハ袖口ヨリニサツ上リ屈曲ニ因テズ

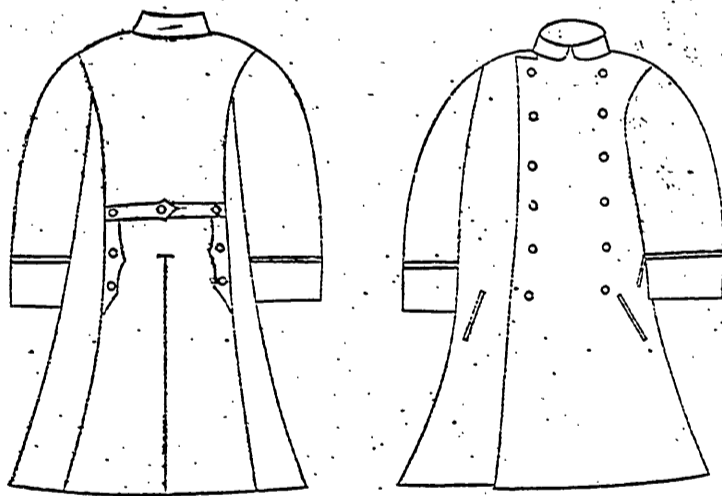
下等三官任判 下等八官等高 等六官等高 等四官等高 等二官等高



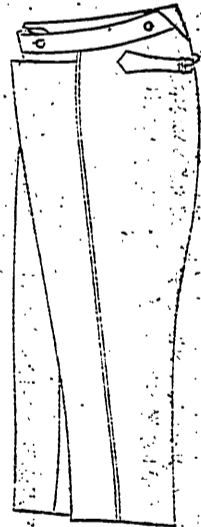
委 外

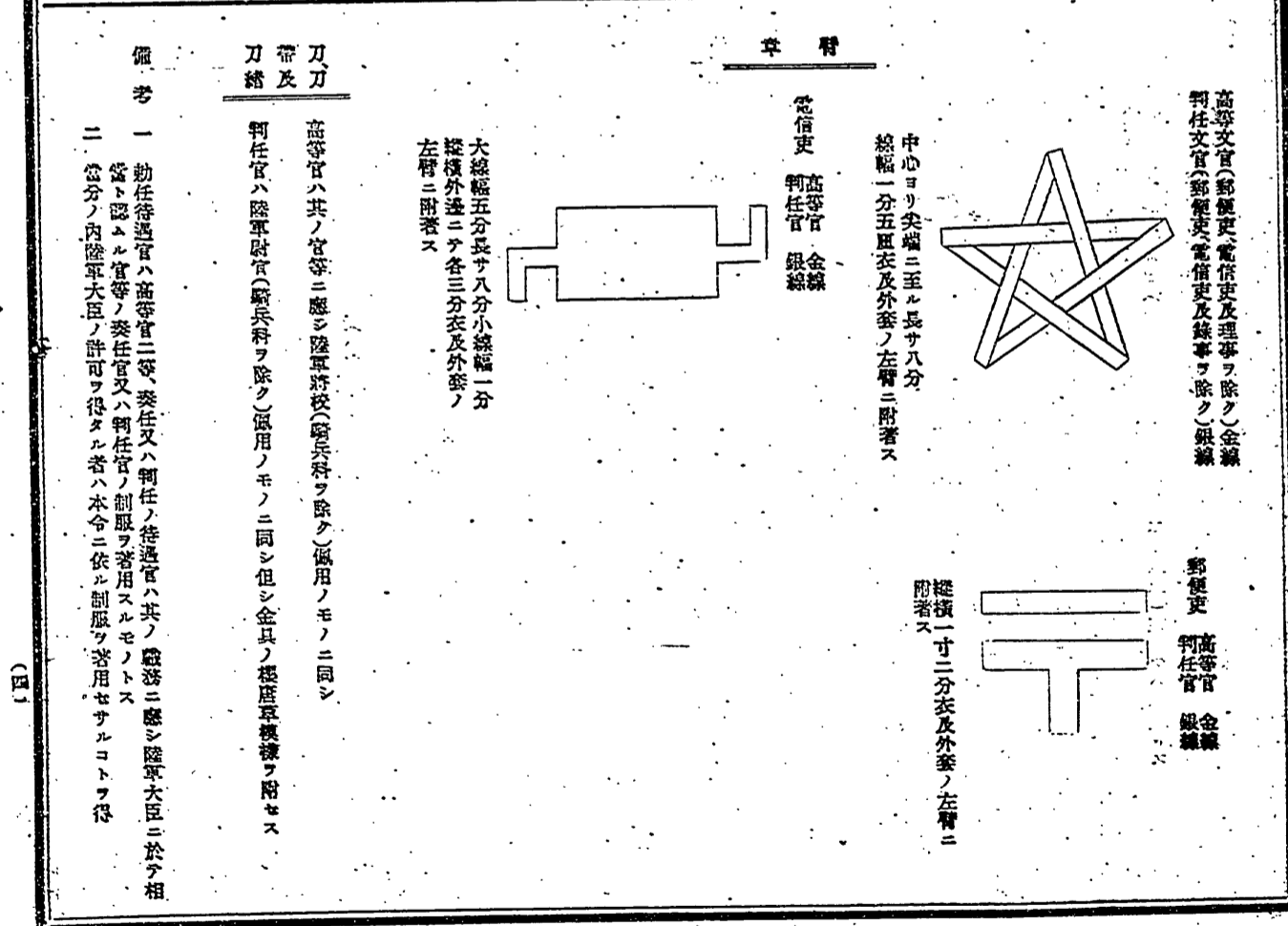
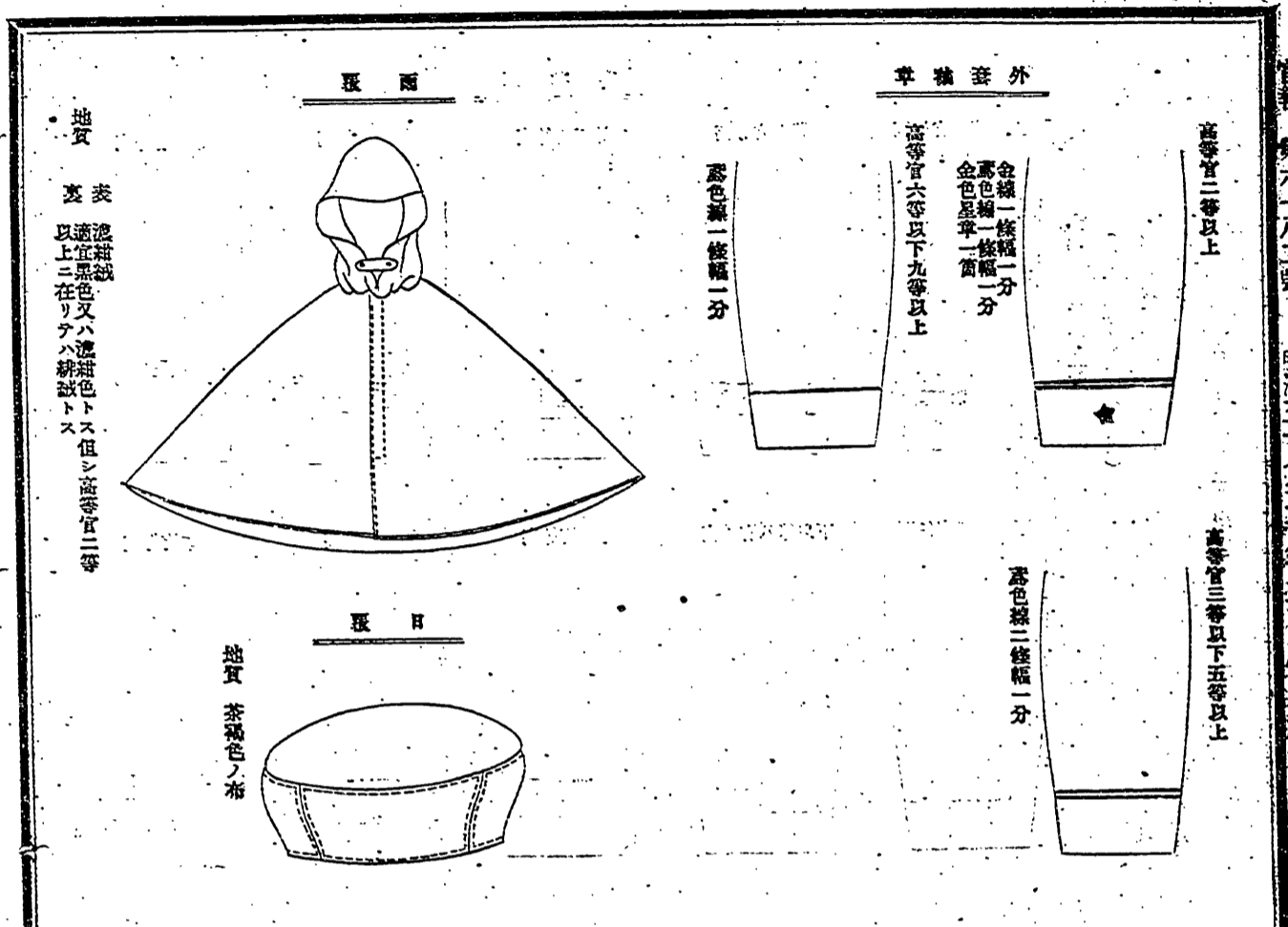
袴

掛 袴
表 濃紺色
裏 濃紺色又ハ濃藍色
全圖 白色又ハ濃藍色
幅 七分五厘



冬袴 濃紺色・裏面ニ幅一分白色線ヲ附ス
夏袴 茶褐色絨又ハ布





朕東京帝國大學農科大學附屬臺灣演習林在勤職員加俸支給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月十二日

内閣總理大臣兼 文部大臣 伯爵桂 太郎 久保田 義

勅令第三十五號

第一條 東京帝國大學農科大學附屬臺灣演習林ニ在勤ヲ命セラレタル文官ニハ加俸ヲ支給ス 前項ノ加俸ニ關シテハ臺灣總督府職員加俸支給規則ヲ準用ス 第二條 臺灣演習林在勤ノ文官及臺灣總督府文官相互轉任シタルトキハ加俸ニ關シテハ前後ノ勤務年數ヲ通算ス 第三條 加俸支給ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム

○省令

大藏省令第四號 國庫債券發行規程左ノ通之ヲ定ム 明治三十七年二月十三日 大藏大臣 男爵曾根 荒助

第一條 國庫債券發行規程 政府ハ明治三十六年勅令第二百九十一號ニ依リ國庫債券壹億圓ヲ發行ス 第二條 國庫債券ノ額ハ一箇年百分ノ五トス 第三條 國庫債券ハ無記名札付トシ其種類ハ五拾圓、百圓、五百圓、千圓及五千圓ノ五種トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名ト爲スコトヲ得 第四條 國庫債券元金ハ募集ノ年ヨリ五箇年以内ニ償還スルモノトス 第五條 國庫債券ノ利率ハ毎年六月及十二月ニ於テ支拂フモノトス 第六條 國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付其最低ヲ九拾五圓トス 第七條 國庫債券ノ應募申込期間ハ明治三十七年三月一日ヨリ同月十日マテ

官報 第六一八二號 明治三十七年二月十三日第三種郵便物認可

第八條 應募申込人ハ應募高應募價格及住所姓名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金貳圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店其他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但保證金ニハ利率ヲ付セズ 第九條 國庫債券應募高需要額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次債券ヲ交付シ需要額ニ滿ツルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少スルモノトス但二百圓以下ノ應募者ニハ之ヲ減少セズ 第十條 申込ハ明治三十七年三月二十一日マテニ確定スルモノトス 確定ノ上ハ其旨申込人ニ通知スヘシ 第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ但第一回拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一回 三月二十一日 貳圓(券面百) 第二回 四月十六日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前) 第三回 五月十六日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前) 第四回 七月十六日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前) 第五回 八月十六日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前) 第六回 九月十六日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前) 第七回 十月十七日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前) 第八回 十一月十六日ヨリ同月二十五日迄 八圓(同前) 發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二回拂込ト共ニ其差額ヲ拂込ムヘシ 第十二條 應募者ノ都合ニ依リ應募額ノ全部又ハ一部ヲ一時ニ拂込ミ若クハ後期ノ分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得 第十三條 國庫債券ノ應募者第二回ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ之ヲ引換ニ本債券ヲ交付スヘシ 第十四條 前條ノ假債券ハ買取價及質ト爲スコトヲ得 第十五條 前項ノ取扱ニ關シテハ明治三十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス 第十六條 假債券ヲ紛失シ又ハ消滅シタルモノアルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ共事實ヲ日本銀行本支店若クハ代理店ニ證明シ更ニ假債券ヲ請求スルコトヲ得 第十七條 國庫債券取扱ニ關スル順序ハ本令ニ規定シタルモノノ外ハ明治三十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ據ル

○臺灣總督府令

臺灣總督府令第七號 明治二十九年十月府令第四十四號官有森林原野產物買渡規則ニ依リ買渡シタル製腦用物件ハ明治三十六年六月法律第五號製腦樟腦樟腦油專賣法第九條第十條

ノ處分ヲ爲シ又ハ粗製樟腦樟腦油製造ノ廢業若ハ生産減額ノ許可シタル場合ニ於テ使用未済ノ分ニ對シ之ヲ賣渡シ取消シ其ノ代金ヲ添付スルコトヲ得

臺灣總督府令第八號 臺灣總督 男爵兒玉源太郎 明治三十七年二月三日

臺灣總督府令第二十一號 臺灣國防用防禦營造物區域取積規則施行細則 明治三十七年二月三日

第八條 許可ヲ與ヘタルトキハ當該官憲許可證(許可證ニハ作業ノ種類位置ヲ示ス)ヲ交付ス

許可證ハ作業ヲ實施スル者必携帶シ何時ニテモ憲兵、衛戍服務ノ軍人及警察官吏ノ問覽ニ供スヘシ許可ノ期限滿ルハ當該官憲ニ返納スヘシ

第十一條 許可ヲ受ケタル工事完成シタルトキ又ハ之ニ著手セス若ハ中止シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ届出許可證ヲ當該官憲ニ返納スヘシ

第十一條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第十一條ノ二 戰時若ハ事變ニ際シ當該官憲ハ臺灣國防用防禦營造物地域第一區ニ於ケル不燃質工作物ノ全部又ハ一部ヲ除去ヲ期限ヲ定メテ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ従ハサル場合ニ於ケル處分ニ關シテハ臺灣國防用防禦營造物區域取積規則第七條ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第一項ノ工作物ノ權利ヲ承継シタル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第一項ノ規定ハ官廳所屬ノ不燃質工作物ニ付テモ亦之ヲ準用ス

臺灣總督府令第九號 臺灣總督 男爵兒玉源太郎 明治三十五年勅令第六號ニ依ル電信電話建築事務兼掌局ヲ左ノ通指定ス

臺北郵便電信局 臺南郵便電信局

臺灣總督府令第十號 臺灣總督 男爵兒玉源太郎 明治三十二年勅令第四十八號私設電信規則第二十四條及同省令第四十九號私設電信規則第二十條ノ料金額及其ノ納付手續第二條ニ依リ一等郵便電信局ノ行フヘキ事務ハ各一二等郵便電信局淡水郵便電信局ヲ除クヲシテ之ヲ行ハシム

臺灣總督 男爵兒玉源太郎 明治三十五年勅令第四十一號ハ之ヲ廢止ス

臺灣總督 男爵兒玉源太郎 明治三十七年二月三日

訓令

大藏省訓令第四號 警視廳 北海道廳 府縣 造幣局 印刷局 專賣局 稅關 稅務監督局 稅務署 臨時海關 土地整理事務局 樟腦事務局 大臣官房會計課 臨時稅關工事部

明治三十六年三十大藏省訓令第十一號明治三十六年度大藏省所管歳入科目表歳入臨時部中ニ第七款賦納金第六項軍費賦納金第一目軍費賦納金ノ項目ヲ追加ス

明治三十七年二月十三日 大藏大臣 男爵兒玉源太郎

陸軍省訓令丙第五號 陸軍一級 寺内正毅

明治三十六年度當省所管歳入歳出科目表中へ左記ノ通増設ス

陸軍大臣 寺内正毅 陸軍省

歳出臨時部	款	項	目	節
軍 費	修 繕 費	不 定	陸軍兵器分廠兵器	
		陸軍兵器分廠兵器		
修 繕 費	不 定	陸軍兵器分廠兵器		
		陸軍兵器分廠兵器		
修 繕 費	不 定	陸軍兵器分廠兵器		
		陸軍兵器分廠兵器		
修 繕 費	不 定	陸軍兵器分廠兵器		
		陸軍兵器分廠兵器		
修 繕 費	不 定	陸軍兵器分廠兵器		
		陸軍兵器分廠兵器		

告示

宮内省告示第八號 東京市麹町區霞ヶ關一丁目元有栖川宮邸ヲ離宮ト定メ霞ヶ關離宮ト稱セラル

明治三十七年二月十三日 宮内大臣 子爵田中光顯

官報 第六八二號 明治三十七年二月十三日 第三種郵便物認可

Table with multiple columns of Japanese characters and numbers, organized into rows and columns. The text is dense and appears to be a list or index of some kind.

第四一〇〇項

英海軍海圖第三九一號第三五七八號支那海軍海圖第七卷上七三五頁至七三八頁及七四二頁ニ關係ス

菲律賓諸島 (Panay I.)

イロイロ港 (Port Illo-Ilo) 浮標式ノ變更
英國水路部告示第一〇二二號 明治三十七年二月十六日 轉載セル米合衆國政府告示ニ據ルハ今般イロイロ港北口ノ諸浮標ヲ變更シテ合衆國ノ浮標式ニ一致セシメ

イロイロ港 (Port Illo-Ilo)

- (一)シエテ、ヘカトス燈臺ヲ北七五度西四九度ニ望ミ水深三ノ一號ト書ス(ヲ代置ス)該浮標ノ北方一號ノ處ハ水深僅ニ十七呎ナリ
- (二)シエテ、ヘカトス燈臺ヲ南八一度西五五度ニ望ミツツガス角 (Dunham Pass) 附近水深三ノ一號ト書ス(ヲ代置ス)該浮標ノ南方一號ノ處ハ水深僅ニ十七呎ナリ
- (三)シエテ、ヘカトス燈臺ヲ北七一度西一以度ニ望ミ水深三ノ一號ト書セル紅色圓錐形浮標ヲ代置セル黒色圓錐形浮標ヲ代置セル
- (四)シエテ、ヘカトス燈臺ヲ北五七度西三三度ニ望ミイグアナ堆 (Igana Bank) ノ南界上水深二ノ一號ト書セル紅色圓錐形浮標ヲ代置セル
- (五)イロイロ燈臺ヨリ南三五度東三三度ニ望ミ黒白塗浮標(不動紅光ヲ顯ス)ハ實際ハ該燈臺ヨリ東北北一號ノ處ニアリ

北緯一〇度四六分

東經一二二度四一分
船前記諸浮標ヨリ二號ヲ隔テ、航行スルヲ要ス

偏差明治三十七年一度東

第四一〇一項
海軍海圖第一六九號支那海軍海圖第一七八頁ニ關係ス
黑龍沿岸州 堪察加東岸

海圖改正

明治三十六年大改正ノ英海軍海圖第二三八八號ニ據リ海軍海圖第一六九號中、堪察加東岸ノ一部分ヲ別紙貼附ノ如ク改正ス

水陸部長 肝付兼行

明治三十七年二月十三日
○長崎海防艦隊出入船心得 佐世保鎮守府司令長官ハ長崎海防艦隊海面ニ出入スル船心得ヲ左ノ通定メタリ(海軍省)

長崎海防艦隊海面ニ出入スル船心得
第一條 防禦海面ヲ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第二條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第三條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第四條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第五條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第六條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第七條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第八條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第九條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第十條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第十一條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第十二條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第十三條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第十四條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第十五條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第十六條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

第十七條 防禦海面ニ出入スル船ハ必ス一旦船首泊地ニ停止シテ特設警備員ニ通報スルヲ要ス

(三五)

○學事

○獎學資金審附 東京帝國大學ニ於ケル地理學研究獎勵費ニ充テタキ旨ヲ以テ某有志者ヨリ金百七十五圓ヲ同大學(審附セリ)(文部省)

○財政

○外國輸入米豫想 大藏省ノ調査ニ係ル本年ノ輸入米ニ對スル豫想左ノ如シ(大藏省)
既往數年ニ於ケル米作及輸入米ノ景況ヲ見ルニ三十二年ハ其收穫高三千九百萬石、三十三年ハ四千九百萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十四年ハ豐作ニシテ其收穫高四千六百餘萬石ノ多キニシテ三十五年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十六年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十七年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十八年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十九年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス四十年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス四十年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス

○學事

○學生退校 砲兵工科學校火工學生上等兵四人一等卒五人ハ本月六日、上等兵三人ハ同日、同學生三十七人ハ同日退校(復歸セリ)(陸軍省)

○學事

○獎學資金審附 東京帝國大學ニ於ケル地理學研究獎勵費ニ充テタキ旨ヲ以テ某有志者ヨリ金百七十五圓ヲ同大學(審附セリ)(文部省)

○財政

○外國輸入米豫想 大藏省ノ調査ニ係ル本年ノ輸入米ニ對スル豫想左ノ如シ(大藏省)
既往數年ニ於ケル米作及輸入米ノ景況ヲ見ルニ三十二年ハ其收穫高三千九百萬石、三十三年ハ四千九百萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十四年ハ豐作ニシテ其收穫高四千六百餘萬石ノ多キニシテ三十五年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十六年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十七年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十八年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十九年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス四十年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス

○學事

○學生退校 砲兵工科學校火工學生上等兵四人一等卒五人ハ本月六日、上等兵三人ハ同日、同學生三十七人ハ同日退校(復歸セリ)(陸軍省)

○學事

○獎學資金審附 東京帝國大學ニ於ケル地理學研究獎勵費ニ充テタキ旨ヲ以テ某有志者ヨリ金百七十五圓ヲ同大學(審附セリ)(文部省)

○財政

○外國輸入米豫想 大藏省ノ調査ニ係ル本年ノ輸入米ニ對スル豫想左ノ如シ(大藏省)
既往數年ニ於ケル米作及輸入米ノ景況ヲ見ルニ三十二年ハ其收穫高三千九百萬石、三十三年ハ四千九百萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十四年ハ豐作ニシテ其收穫高四千六百餘萬石ノ多キニシテ三十五年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十六年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十七年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十八年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十九年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス四十年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス

○學事

○學生退校 砲兵工科學校火工學生上等兵四人一等卒五人ハ本月六日、上等兵三人ハ同日、同學生三十七人ハ同日退校(復歸セリ)(陸軍省)

○學事

○獎學資金審附 東京帝國大學ニ於ケル地理學研究獎勵費ニ充テタキ旨ヲ以テ某有志者ヨリ金百七十五圓ヲ同大學(審附セリ)(文部省)

○財政

○外國輸入米豫想 大藏省ノ調査ニ係ル本年ノ輸入米ニ對スル豫想左ノ如シ(大藏省)
既往數年ニ於ケル米作及輸入米ノ景況ヲ見ルニ三十二年ハ其收穫高三千九百萬石、三十三年ハ四千九百萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十四年ハ豐作ニシテ其收穫高四千六百餘萬石ノ多キニシテ三十五年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十六年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十七年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十八年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス三十九年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス四十年ハ其收穫高四千二百餘萬石ニシテ其作額ナラハカラス

○學事

○學生退校 砲兵工科學校火工學生上等兵四人一等卒五人ハ本月六日、上等兵三人ハ同日、同學生三十七人ハ同日退校(復歸セリ)(陸軍省)

○學事

○獎學資金審附 東京帝國大學ニ於ケル地理學研究獎勵費ニ充テタキ旨ヲ以テ某有志者ヨリ金百七十五圓ヲ同大學(審附セリ)(文部省)

一 陸奥産米の増加 陸奥産米の増加...

二 陸奥産米の減少 陸奥産米の減少...

三 陸奥産米の増加 陸奥産米の増加...

陸奥産米の増加 陸奥産米の増加...

Table with columns: 年次, 陸奥産米, 外地産米, 内地産米, 人口, 一人産米

Table with columns: 税目, 決算額, 課税率, 比較増減

秋田縣ニ於ケル明治三十五年度縣...

Table with columns: 種別, 金額, 備考

○ 戰報

中將、土屋陸軍中將、山縣内務次官、上田陸軍中將、有馬海軍中將、石本陸軍次官、伊集院海軍中將、淺田陸軍少將、兒玉陸軍少將、谷口陸軍軍醫監、渡邊陸軍少將、澁谷陸軍少將、藤井陸軍少將、陸軍一等主計正青柳忠次、陸軍砲兵大佐松本典及、園田北海軍道長官、千家東京府知事、在東京地方長官一同、御陪食仰付ケラレ、

○勅語 本月十日瓜生第二艦隊司令官へ左ノ勅語ヲ賜リ、
聯合艦隊第四艦隊ハ陸軍ヲ擁護シ仁川上陸ノ任務ヲ完クシ加フルニ敵艦ヲ港外ニ擊破シ遂ニ之ヲシテ濞滅セシムルニ至ル
朕深ク之ヲ嘉尚ス

○仁川ノ捷報 本月十日前零時十五分仁川發同三時十五分東京著ニテ瓜生第二艦隊司令官ヨリ左ノ電報アリ

九日正午露國軍艦「ワリアーグ」及「コレット」仁川港ヨリ出テ來ルハ八尾島東方ニ假泊セル我艦隊ハ之ヲ八尾島以西ニ遊撃ス戰同三十五分間「ワリアーグ」ハ八尾島射擊砲九三、十五海連射砲九七ヲ受ケタルカ如ク後艦橋附近被シ後部ニ大火災起リ被害大ニシテ「コレット」共ニ仁川港ニ退却セリ午後四時三十分仁川港ニ於テ探照ノ大ナルモノアルヲ見ル依テ水雷艇ヲテ偵察セシメタルニ此探照「コレット」ナリシ如シ今露艦二隻トモ破壊沈没シ露國東清鐵道會社汽船「スンガリー」モ同線ナルヲ知レリ我艦隊ハ損害ナク又一ノ死傷者モナシ我軍氣大ニ振フ
九日午後七時川港外
○旅順方面ノ戰報 一昨十一日午後二時東京著ニテ東郷聯合艦隊司令官ヨリ左ノ電報アリ（以上海軍省）

聯合艦隊ハ去ル六日佐世保ヲ出發シタル後總テ預定ノ如ク行動シ八日正午我艦隊ハ旅順ニ在ル敵ヲ攻撃セリ當時敵艦隊ノ大部隊ハ旅順港外ニ在リテ我艦隊ノ水雷ニ掛リシモノ少クトモボルターワ形一隻巡洋艦「アスコ」ト外ニ雙アリシモノト認ム我艦隊ハ九日午前十時旅順口沖ニ達シ正午ヨリ約四十分間港外ニ殘留セル敵艦隊ヲ攻撃セリ此攻撃ノ結果ハ未タ明瞭ナラサルモ敵ニ少カラサル損害ヲ與ヘ大ニ彼カ士氣ヲ阻害セシメタルモノト信ス敵ハ漸次港内ニ逃走スルモノ、如シ午後一時戰鬪ヲ止メ引上ケタリ此攻撃ニ於ケル我艦隊ノ損害ハ輕少ニシテ寸毫モ戰鬪力ヲ減セス死傷ハ約五十八人ニシテ内戦死四人負傷五千四百人ナリ

仁川方面ニ向ヒタル分遣艦隊ノ戰況ハ既ニ瓜生司令官ヨリ直接電報セルカ如シ
我艦隊ハ敵ノ砲火ヲ冒シテ攻撃ヲ果シ其大部ハ既ニ本隊ニ合セリ艦隊ニ御乘艦ノ各艦下ハ皆御無事ナリ我將率一般ノ戰鬪ニ從事セル狀況ハ頗ル沈著ニシテ恰モ平常ノ演習ニ異ナラス戰鬪後ニ於ケル士氣ハ益々旺盛ニシテ

官報 第六一八二號 明治三十七年二月十三日(第三號)海軍省

而モ黎勒ハ愈々沈著ナリ今朝來風波アリテ船艙間ノ交通不通ナルタメ未タ各艦ヨリノ詳報ニ接キス取敢ヘス右概況ノミ報告ス 二月十日

○ 彙報

○官吏著者 神宮 神武天皇御陵 孝明天皇御陵へ勅使奉仰付ケラレタル君倉宗典長、神宮祈年祭勅使奉仰付ケラレタル掌儀田秋輔ハ今十三日就中出發ス
大迫第七師團長ハ本月八日土屋第十一師團長ハ同日東京ニ向ヒ就中出發セリ
新潟地方裁判所檢察正ニ任命セラレタル檢事田中秀夫ハ本月四日若任●金澤監獄典獄野忠武ハ同日東京ニ赴ク
豊二名古川憲一及島田元久ハ出獄ノ文部被仰久留正道ハ昨日十二日歸京セリ
若男官務總長若井政基及島田元久ハ昨日十一日出發歸任セリ

○官吏卒去 後備陸軍三等軍醫正從五位勳五等山口貞齊ハ去月十五日卒去セリ

○司法及警察
○辯護士名簿登録 香川縣長河田春長ハ本月二日香川縣地方裁判所檢察官ニ任テ、國島縣平民長平ハ同日東京地方裁判所檢察官ニ任テ、山形縣平民小園孝博ハ同日山形地方裁判所檢察官ニ任テ、愛媛縣士族大島昭一ハ同日山形地方裁判所檢察官ニ任テ、靜岡縣平民小久江英代吉ハ東京地方裁判所檢察官ニ任テ同日、陸軍少佐大田隆太郎ハ同日東京地方裁判所檢察官ニ任テ、秋毛清志ニ因リ辯護士名簿ニ登録セリ
○辯護士名簿登録取消 大分地方裁判所所屬辯護士水野辰介ノ死去ニ因リ本月一日同裁判所檢察官ニ於テ辯護士名簿ニ登録ヲ取消セリ

○破産管財人任命 靜岡地方裁判所所屬破産管財人藤岡平良高野誠次郎ハ任期限二付キ本月五日再々破産管財人ト命ジラレタリ
○出火 神奈川縣外四郡ニ於ケル出火左ノ如シ
同五時餘火原因不明ナリ
山梨縣 本月六日午後五時頃東八代郡黒川村大字藤ノ木字新田通元入會社林原野ヨリ出火凡ソ百町歩焼失翌七日後九時頃火原因不明ナリ
同縣 本月一日午前十一時五分石城郡永井村大字今月宇藤ヨリ出火全焼戶數二十二、要領燒、遊道駐在所各一、半焼戶數一月同午後四時頃火セリ
廣島縣 去月三十一日午前三時頃島立郡立島村中學校校舎自修室ヨリ出火一棟焼失同時火セリ和歌山縣 本月六日午後十時頃和歌山縣三輪郡村ヨリ出火同村役場ニ連卷駐在所各一、民家六十、六戶全焼同午前一時頃火セリ

○陸海軍
○水路告示第四百五十八號
一 艦船ニ於テ此告示ヲ受シタルトキハ必ズ其關係ノ圖誌ヲ改正補綴セシムコトヲ要ス
一方位ハ總テ緯緯ニシテ緯緯ノ方位ハ海方ヨリ取ル
第四〇九四項
海軍部第二八〇號第三一八號第三七二號文部省海軍部第四卷二九頁二圖等ス

官報 第六一八二號 明治三十七年二月十三日(第三號)海軍省

支那、揚子江口

崇明渡浮標ノ變更

清國各口巡工司特別告示第一八八號(明治三十七年一月二日)據レハ東口浮標南方ノ水道ハ其水深及幅ヲ増加セシニヨリ本月七日前後ヲ以テ崇明渡標示ノ浮標ヲ左ノ如ク變更ス

(一)東口浮標ハ是迄瓦斯式柱燈浮標ナリシヲ今般紅黑橫線塗ノ好路浮標ニ變更ス

(二)第一橫渡浮標ヲ現位置ヨリ南一一度東一〇分鏡ノ處ニ移徒ス

針路法 崇明渡ニ於テ最好水道ヲ得ント欲スル船舶ハ各浮標ヲ其著色ニ從ヒ約一鏡ノ距離ニ視テ航過セハ大低潮ニ於テ二十七呎ノ最少水深ヲ得ヘシ

偏差二度二〇分西

第四〇九五項 海軍海圖第一三三號第一〇號日本水路第三卷通稱第二二八頁同第四卷三九〇頁同第五卷一三二頁ニ關係ス

瀬戸内(日本内海及津輕海峽) 水底電線ノ増設及新設

明治三十六年十二月五日官報通信省告示第五九六號ヲ注視スヘシ

第四〇九六項 燈臺ノ明弧及光達等ノ改正

新刊ノ航路標識便覽表ニ據リ梶泉燈臺外六ヶ所ノ明弧光達等ヲ左表ノ如ク改正ス

Table with columns for location (地方), light type (燈臺種類), and details (明弧光達等). Locations include 日高、下総、伊豆、加賀、安平、白砂、北島.

第四〇九七項 海軍海圖新刊

海軍海圖第一三三號第一〇號日本水路第三卷通稱第二二八頁同第四卷三九〇頁同第五卷一三二頁ニ關係ス

七 本洲南岸

尾鷲灣至和歌浦海 明治三十七年一月 編版 金六拾五圓

北洲南岸 港 四時〇二分 港泊圖 明治三十六年十二月 編版 金拾五圓

同 改版 名 尺度 紙種 種類 出版年月 版種 定價 價 記

九州北岸 港 四時〇二分 港泊圖 明治三十六年十二月 編版 金拾五圓

北洲南岸 港 三時六〇二分 港泊圖 明治三十六年十二月 編版 金拾五圓

同 改版 名 尺度 紙種 種類 出版年月 版種 定價 價 記

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

五島列島有川海 海軍海圖第一九七號改版成ルヲ以テ之ヲ廢ス

官報

號外

明治三十七年二月十四日

日曜日

印刷局

○宮廷録事

○勅語 本月五日海軍大臣、陸軍大臣へ左ノ勅語ヲ賜リタリ
朕ハ東洋ノ平和ヲ以テ朕カ衷心ノ欣幸トスル所ナルカ故ニ清韓ノ兩國ニ關
スル時局ノ問題ニ付朕カ政府ヲシテ昨年來露國ト交渉セシメリ然ルニ露國
政府ハ東洋ノ平和ヲ願念スルノ誠意ナキコトヲ確認セシムルノ止ムヲ得サ
ルニ達シタリ蓋シ清韓兩國領土ノ保全ハ我日本ノ獨立自衛ト密接ノ關係ヲ
有ス茲ニ於テ朕ハ朕カ政府ニ命シテ露國ト交渉ヲ斷テ我獨立自衛ノ爲メニ
自由ノ行動ヲ執ラシムルコトニ決定セリ
朕ハ卿等ノ忠誠勇武ニ信頼シ其目的ヲ達シ以テ帝國ノ光榮ヲ全クセムコト
ヲ期ス

官報號外 明治三十七年二月十四日(第三十三號)第三種郵便物認可

官報

第六千九百九十五號

明治三十七年二月二十九日

月曜日

印刷局

1382

勅令

朕俘虜及拿捕シタル船舶ノ乘員竝之ニ準スヘキ者ノ給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月二十七日

海軍大臣 男爵山本權兵衛
陸軍大臣 寺内正毅

勅令第五十號

帝國艦内ニ在ル俘虜及拿捕シタル船舶ノ乘員竝之ニ準スヘキ者ニハ必要ニ應シ糧食被服消耗品等ヲ現品又ハ代金ヲ以テ給與ス
前項ニ依リ給與スルモノノ品種及數量ハ陸軍大臣海軍大臣之ヲ定ム

朕戰時又ハ事變ニ際シ官吏ニ非スシテ海軍ノ事務ニ從事スル者ノ待遇ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月二十七日

内閣總理大臣 伯爵桂 太郎
海軍大臣 男爵山本權兵衛

勅令第五十一號
戰時又ハ事變ニ際シ官吏ニ非スシテ海軍ノ事務ニ從事スル者ハ其ノ職務ニ應シ委任官又ハ判任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

朕海軍戰時給與規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月二十七日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

勅令第五十二號

海軍戰時給與規則中左ノ通改正ス

第十一條ノ二 艦船ニ在ル准士官以上ノ候補生及文官ニ糧食ヲ給與スル場合ニ於テ別ニ炊爨セシムル必要アルトキハ食數ニ應シ食料ヲ給シ糧食ヲ自辨セシムルコトヲ得

前項ノ食料ニ關シテハ海軍糧食條例第八條及前條ノ例ニ依ル

朕公立學校職員俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月二十七日

文部大臣 久保田讓

勅令第五十三號
公立學校職員俸給令中左ノ通改正ス
第十五條中特別ノ事情アルトキハ俸給ヲ職時若ハ事變ニ際シ召集セラレタ
ルカ爲休職トナリタル場合ニハ俸給ノ一部共ノ他特別ノ事情アル場合ニハ
其ニ改ム

○省令

農商務省令第三號
明治三十二年勅令第三百六十三號第十號ノ二及第十號ノ三ニ依リ國有林野産
物ヲ隨意契約ニ依リ拂受クルコトヲ得ル重要製産品ノ製造業者及木材業者ノ
資格左ノ通相定ム

明治三十七年二月二十九日

農商務大臣 男爵清浦奎吾

第一條 本令ニ於テ重要製産品ノ製造業者ト稱スルハ左ニ掲クル物品ノ製造
業ヲ營ム者ヲ云フ

- 一 紙其ノ材料
- 一 漆其ノ材料
- 一 漆器其ノ材料
- 一 漆器其ノ箱板
- 一 輸出向木材ノ板類、種材
- 一 輸出向竹材
- 一 輸出向器具、機械其ノ材料
- 一 輸出向木炭

第二條 重要製産品ノ製造業者ニシテ左記各號ノ一ニ該當シ信用確實ナルモ

ノハ隨意契約ニ依リ國有林野ノ産物ヲ其ノ製造用原料トシテ拂受クル資格
アルモノトス

一 會社ニシテ一箇年以上其ノ拂受ケントスル原料ヲ要スル重要製産品ノ
製造業ヲ營ミ資本金三萬圓以上ヲ有スルモノ

一 會社ニアラスシテ一箇年以上其ノ拂受ケントスル原料ヲ要スル重要製産
品ノ製造業ヲ營ミ一箇年ノ賣上金額二千圓以上ナルモノ

一 拂受ケントスル原料ヲ要スル輸出物品ノ製造業ヲ營ミ資本金三萬圓以
上ヲ有スルモノ

第三條 木材業者ニシテ左記各號ノ一ニ該當シ信用確實ナルモノ隨意契約ニ
依リ國有森林ノ主産物ヲ拂受クル資格アルモノトス

一 會社ニシテ二箇年以上木材買買ノ業ヲ營ミ資本金五萬圓以上ヲ有スルモ
ノ

一 會社ニアラスシテ二箇年以上木材買買ノ業ヲ營ミ營業稅五圓以上ヲ納ム
ルモノ

逓信省令第十二號

明治三十年六月逓信省令第十八號外國新聞電報規則中左ノ通改メ本日ヨリ施
行ス

明治三十七年二月二十九日

逓信大臣 大浦兼武

第二條第一項中第二號以下ヲ左ノ通改ム

- 一 「イースター」線ヲ經テ本邦ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ
付金六錢
- 二 馬尼刺線又ハ濠洲及太平洋洋線ヲ經テ本邦ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモ
ノハ一語ニ付金八錢
- 三 本邦ト前各號以外ノ諸國トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金八錢
- 四 同條第三項第二號ヲ左ノ通改ム
 - 一 長崎及馬尼刺線又ハ長崎、濠洲及太平洋洋線ヲ經テ韓國ト歐羅巴トノ間
ニ送受スルモノハ一語ニ付金六錢
 - 二 長崎及「イースター」線ヲ經テ韓國ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ
一語ニ付金四錢

○告示

大藏省告示第二十號
福岡縣事務局長本月二十日福岡縣福岡市上山町三番地ノ二ニ移ス
明治三十七年二月二十九日 大藏大臣 男爵會福亮助

(各連)

小野寺 和衛 永原 信行 戸上 梅太郎 井上 善吉 坂井 善三 藤田 善一 荒木 誠一 山下 誠一 遠藤 武三 小泉 武三 鹿子 貞信 鈴木 美三 稻田 輝太郎 神田 千顯 北島 香田 佐藤 信 岡本 平 石田 流芳 竹内 泰民 和田 村太 城戸 忠彦 村田 豊太郎 千田 音雄 原 民次郎 國師 崎尚文 佐藤 義之亮 廣瀬 新七 河喜 常雄 大樂 知一 上妻 謙一 岸川 謙治 片岡 秀植 宮崎 保雄 大熊 成雄 園田 成幸 新貝 岩吉 永安 幸龍 横井 卓爾 西川 虎太郎 坪内 虎太郎 伊地 知四郎 林 余次郎

海軍少機關士候補生ヲ命ス
三笠乗組ヲ命ス
初瀬乗組ヲ命ス
敷島乗組ヲ命ス
朝日乗組ヲ命ス
富士乗組ヲ命ス
八島乗組ヲ命ス
淺間乗組ヲ命ス
常磐乗組ヲ命ス
磐手乗組ヲ命ス
出雲乗組ヲ命ス
八雲乗組ヲ命ス
吾妻乗組ヲ命ス
日進乗組ヲ命ス
春日乗組ヲ命ス
笠置乗組ヲ命ス
千歳乗組ヲ命ス
高砂乗組ヲ命ス
吉野乗組ヲ命ス

海軍少機關士候補生 小野寺 和衛
海軍少機關士候補生 永原 信行
海軍少機關士候補生 戸上 梅太郎
海軍少機關士候補生 井上 善吉
海軍少機關士候補生 坂井 善三
海軍少機關士候補生 藤田 善一
海軍少機關士候補生 荒木 誠一
海軍少機關士候補生 山下 誠一
海軍少機關士候補生 遠藤 武三
海軍少機關士候補生 小泉 武三
海軍少機關士候補生 鹿子 貞信
海軍少機關士候補生 鈴木 美三
海軍少機關士候補生 稻田 輝太郎
海軍少機關士候補生 神田 千顯
海軍少機關士候補生 北島 香田
海軍少機關士候補生 佐藤 信
海軍少機關士候補生 岡本 平
海軍少機關士候補生 石田 流芳

米本 鹿之助
榎井 米三郎
小崎 季正
村上 純彦
竹垣 辰雄
伊藤 傳一
兒玉 七郎
杉部 徹二
南居 秀夫
島居 卓二
伊藤 正二
藤澤 正二
池野 龍之助
深江 壽滿雄
佐藤 拙郎
泉 富三郎
野村 文治
久保 真輔
加藤 遜
岡本 三
鹽田 三
田中 喜八
西郷 正男
林 親

三笠乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	竹内 泰民
初瀬乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	和田 村太
朝日乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	城戸 忠彦
富士乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	村田 豊太郎
八島乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	千田 音雄
淺間乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	原 民次郎
常磐乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	國師 尚文
磐手乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	佐藤 義之亮
出雲乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	廣瀬 新七
八雲乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	河喜多 常雄
日進乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	大樂 知一
春日乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	岸川 謙治
笠置乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	片岡 秀植
千歲乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	宮宮 保雄
吉野乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	天熊 靜雄
三笠乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	國田 成吉
初瀬乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	新井 岩吉
朝日乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	永安 幸龍
富士乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	横田 英
八島乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	横井 卓爾
淺間乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	西川 虎太郎
常磐乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	坪内 實
磐手乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	伊地知 四郎
出雲乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	林 余次郎
八雲乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	米本 鹿之助
日進乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	榎井 米三郎
春日乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	小崎 正
笠置乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	村上 季彦
千歲乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	竹垣 純信
吉野乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	伊藤 辰雄
三笠乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	南部 徹二郎
初瀬乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	島居 秀夫
朝日乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	伊藤 卓二
富士乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	藤澤 正二
	海軍少機關士候補生	池野 龜之助
	海軍少機關士候補生	深江 壽滿雄
	海軍少機關士候補生	佐藤 抽郎
	海軍少機關士候補生	泉 富三郎

八島乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	野村 文治
淺間乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	久保 其輔
常磐乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	加藤 春
磐手乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	岡本 通
出雲乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	鹽田 眞三
八雲乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	田中 喜八
日進乘組ヲ命ス	海軍少機關士候補生	林 正男
	海軍少機關士候補生	西郷 從親
	海軍少主計	大田 利一
	海軍少主計	國分 貞吉
	海軍少主計	竹下 次男
	海軍少主計	大野 卯太郎
	海軍少主計	井上 幹造

(各通)
 横須賀鎮守府附ヲ命ス(以上七名ニ海軍省)
 千葉地方裁判所及同檢事局並千葉區裁判所及同檢事局ニ於テ事務修習ス
 (七名ニ司法省)
 東京帝國大學法科大學助教授 松岡 均平
 文官限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス(七名ニ文部省)
 臨機横濱ニ出張ヲ命ス
 横濱ニ出張ヲ命ス(以上七名ニ通信省)
 休職ヲ命ス(七名ニ石川縣)
 九級俸下賜(七名ニ愛媛縣)
 給十一級俸(七名ニ福岡縣)
 愛媛縣立宇和島中學校教諭 小林 庄次郎
 福岡縣久留米市長 山田 靜三

宮廷録事

謁見 本邦駐劄獨逸國特命全權公使伯魯フオン、アルコロ、ワルライハ合般
 パ、リヤ王國「デレンシエン」勳章長官マリエテレゼ妃殿下ヨリ御贈進ノ金剛石
 付「デレンシエン」勳章捧呈ノタメ、パ、リヤ王國砲兵中尉男爵ステンゲルヲ隨ヘ
 去月二十九日正午十二時葉山御用邸ニ於テ 皇后陛下ニ謁見仰付ケラレタリ

戰報

○旅順口閉塞隊人員訂正 去月二十八日官報號外掲載旅順口閉塞隊人員ハ通
 信電文ニ誤謬ノ康アルヲ發見シタルニ付キ總テ左ノ通り訂正ス(海軍省)
 旅順口閉塞隊人員
 天津丸 海軍中佐有馬 良楠 (淺間) 海軍上等兵曹 上信 音藏
 (初瀬) 海軍大機關士山賀 代三 (淺間) 海軍一等信使兵曹 内田 祐之助
 (初瀬) 海軍一等機關兵曹 大野 喜一郎

(三笠) 海軍二等兵曹 林 紋平	(三笠) 海軍二等機關兵 加儀 榮義	(三笠) 海軍一等機關兵 田中 三九郎	(初瀬) 海軍一等機關兵 阪口 力松	(初瀬) 海軍一等機關兵 高橋 運治	(千歳) 海軍一等機關兵 万木 次郎松	(千歳) 海軍一等機關兵 田中 豊太郎	(富士) 海軍一等機關兵 飯田 真吉	(富士) 海軍二等機關兵 深山 長作	(富士) 海軍二等機關兵 室 志摩生	(富士) 海軍三等機關兵 谷田 勘助	(富士) 海軍三等機關兵 青木 勘助	報國丸	海軍少佐 廣瀬 武夫	(敷島) 海軍大機關士 栗田 富太郎	(朝日) 海軍一等兵曹 大沼今朝次郎	(敷島) 海軍二等兵曹 角久間千蔵	(敷島) 海軍二等機關兵 塚本 助市	(朝日) 海軍一等機關兵 大山 鉄三郎	(朝日) 海軍一等機關兵 三富 由太郎	(朝日) 海軍一等機關兵 竹澤 彌七	(敷島) 海軍一等機關兵 日高金左衛門	(敷島) 海軍一等機關兵 藤本 金太郎	(敷島) 海軍二等機關兵 武野 敬次	(朝日) 海軍二等機關兵 佐藤 七郎	(朝日) 海軍二等機關兵 高井 清	(笠置) 海軍二等機關兵 城戸 隆	(笠置) 海軍三等機關兵 盛田 隆義	(朝日) 海軍三等機關兵 石井 銀次郎	仁川丸	海軍大尉 齋藤 七五郎	(霞) 海軍大機關士 南澤 安雄	(八島) 海軍一等兵曹 山田 仲次郎	(淺間) 海軍二等機關兵 増田 平馬	(八島) 海軍三等機關兵 寺岡 寅市	(出雲) 海軍一等機關兵 青木 六郎	(出雲) 海軍一等機關兵 貝原 政吉	(淺間) 海軍一等機關兵 林 政吉	(八島) 海軍一等機關兵 土屋 勝次郎	(出雲) 海軍二等水兵 安保 助藏	(八島) 海軍二等機關兵 椋原 健三	(出雲) 海軍二等機關兵 伊豆 音松	(吉野) 海軍二等機關兵 三村 千方	(出雲) 海軍二等機關兵 三島 謙六	(淺間) 海軍二等機關兵 宇野 虎三	(吉野) 海軍三等機關兵 藍原 善七	武陽丸	海軍大尉 正木 義太	(初瀬) 海軍中機關士 大石 親徳	(初瀬) 海軍一等兵曹 米良 正藏	(香菱) 海軍三等機關兵 榎原 龍次	(初瀬) 海軍三等機關兵 田尻 藤八	(高砂) 海軍一等水兵 新上 卯太郎	(八雲) 海軍一等機關兵 樋口 吉次郎	(香菱) 海軍一等機關兵 栗田 鎌太郎	(初瀬) 海軍一等機關兵 田尻 利平	(八雲) 海軍一等機關兵 高橋 勝徳	(八雲) 海軍二等機關兵 中田 敬一郎	(香菱) 海軍二等機關兵 篠宮 大夫	(初瀬) 海軍二等機關兵 吉田巳之次郎	武州丸	海軍中尉 島崎 保三	(常盤) 海軍少機關士 杉 政人	(常盤) 海軍一等兵曹 中川 作太郎	(富士) 海軍二等兵曹 赤松 虎太郎	(常盤) 海軍二等機關兵 米田 賢一	(磐手) 海軍三等機關兵 木下 志米吉	(磐手) 海軍一等機關兵 松元 豊吉	(磐手) 海軍一等機關兵 加藤 志徳	(磐手) 海軍一等機關兵 長井 右吉	(常盤) 海軍一等機關兵 上野 岩次郎	(高砂) 海軍一等機關兵 山 寅之助	(高砂) 海軍一等機關兵 坪山 金藏	(常盤) 海軍一等機關兵 莊 喜藏	(常盤) 海軍四等機關兵 橋本 圭一郎
------------------	--------------------	---------------------	--------------------	--------------------	---------------------	---------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-----	------------	--------------------	--------------------	-------------------	--------------------	---------------------	---------------------	--------------------	---------------------	---------------------	--------------------	--------------------	-------------------	-------------------	--------------------	---------------------	-----	-------------	------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	---------------------	-------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-----	------------	-------------------	-------------------	--------------------	--------------------	--------------------	---------------------	---------------------	--------------------	--------------------	---------------------	--------------------	---------------------	-----	------------	------------------	--------------------	--------------------	--------------------	---------------------	--------------------	--------------------	--------------------	---------------------	--------------------	--------------------	-------------------	---------------------

正誤
去月二十八日官報外本欄二頁上段十一行隊員中ノ下ニ「仁川丸ノ卒一名既死」ノ九字ヲ脱ス(報告誤)
海軍省副官

彙報

官廳事項

○失官 休職長野縣警官正六位勳六等大藏買入收賄罪ニ依リ去月十九日懲禁四月罰金十五圓ノ判決確定シ失官者ト爲レリ

○官吏發着 主務局勤務員高橋次郎ハ去月二十九日出發栃木縣下日光御嶽場へ出張セリ

三重縣へ出張ヲ命ゼラルル進部官技師水子清敬ハ今日出發ス

三兵庫縣下加西郡地方へ出張ノ東條歩兵第八旅團長ハ去月二十六日歸省セリ

三上京ノ金澤監獄典獄官野田武ハ去月二十六日、千葉監獄典獄官高木光久ハ同日二十八日、鹿児島監獄典獄官鈴木和介ハ同日二十九日執毛出發歸任

盛岡地方裁判所長丸山精三ハ同日二十七日上京セリ

三神奈川外三縣へ出張ノ文部省視學官關一ハ去月二十六日歸京セリ

三東京ノ警務總局警務官増澤有ハ去月二十九日出發歸任セリ

大塚北海道警務官ハ去月二十八日上京セリ

三重縣警務官水間徳三ハ去月二十八日上京

三東京ノ警務總局警務官力石雄一ハ同日二十七日出發歸任セリ

官吏死去

休職陸軍少佐大尉正六位勳四等竹内鐵次ハ去月十八日死去セリ

司法及警察

○辯護士名簿登錄 京都府平民中沼信一、那珂郡地方裁判所檢察局ニ於テ愛知縣士族服部明ハ名古屋地方裁判所檢察局ニ於テ愛知縣士族赤松龍兵衛ハ關山地方裁判所檢察局ニ於テ秋田縣士族三田幸三ニ因リ辯護士名簿ニ登錄セリ

豫戒命令執行

茨城縣ニ於テ去月二十七日左ノ通豫戒命令ヲ執行セリ

茨城縣警務部 下館町甲八百二番地士族實業家野村長 送谷 琢太郎

豫戒令第一條第三號ニ該當スルヲ以テ同令第二條第二號第三號ヲ命令ス

東京市下谷區下谷二丁目三番地平民當野村長 送谷 琢太郎

豫戒令第一條第一號第三號ニ該當スルヲ以テ同令第二條第一號第二號第三號ヲ命令ス

大分縣 大分市 大分區 大分町 大分七十七番地ヨリ 出火全棟四月

出火

東京府 去月二十七日午前二時五十分東京市小石川區大塚坂下町百七十七番地ヨリ 出火全棟四月

同日午前一時三十分多摩郡元八王子村字下一分方三十三番地ヨリ 出火全棟二月全棟セリ

石川縣 去月十九日午前十一時三十分鳳至郡七浦村字倉月ヨリ 出火家屋四十二棟、土蔵二棟納屋十

九棟電柱三本燒失傷者一、同年午後五時餘火原因詳ナラス

陸海軍

○水路告示第四百六十七號

一 船隻ニ於テ此告示ヲ領受シタルトキハ速ニ其關係ノ圖誌ヲ改正増補セシムコトヲ要ス

二 方位ハ總テ磁針ニシテ燈臺ノ方位ハ海方ヨリ取ル

第四一七項

海軍省第三大隊第一四二號第五〇號日本水路第三卷通稱第三ノ七頁東洋海面上卷二二頁七〇番二關係ス

第四一八項

西ノコバン 懸掛燈立標ノ建設
明治三十七年二月二十六日官報通省告示第一三三號ヲ注視スヘシ

第四一九項

馬公要港船舶出入心得
明治三十七年二月二十六日官報臺灣總督府告示第二四號ヲ注視スヘシ

第四二〇項

九州北岸 對馬
竹敷港内暗礁ノ發見
明治三十七年二月大後海軍水路中監ノ報告ニ據レハ今般測量ノ際左記ノ暗礁ヲ發見セリ

(一)ノ一ノ尋礁

概位
北緯三四度一七分三六秒 東經一二九度二〇分五九秒

(二)ノ一ノ尋礁

概位
北緯三四度一七分五八秒 東經一二九度二〇分四五秒

(三)ノ一ノ尋礁

概位
北緯三四度一八分三秒 東經一二九度二〇分三五秒

(四)ノ一ノ尋礁

概位
北緯三四度一八分一一秒 東經一二九度二〇分五〇秒

(五)ノ一ノ尋礁

概位
北緯三四度一八分一九秒 東經一二九度二〇分五六秒

第四二一〇項

朝鮮西岸及南西岸 鴨洋渡及五馬路島
潮信ノ改正
明治三十七年二月精算ノ結果ニ依リ左表ノ如ク潮信ヲ改正ス

Table with columns for location (地名), tide type (潮信), and time (時刻). Locations include 鴨洋渡, 五馬路島, etc.

項外

正誤
水路告示第一四六號四二五項關係圖中英海軍海圖第二六六一號Bノ下ニ記セル第二六七號ノ五字ハ第四八號ノ次ニ入ルヘキヲ誤

第四二二項

朝鮮西岸 濟物浦鐵地
沈船位置標示燈ノ設置
明治三十七年二月山川大島航海長ノ報告ニ據レハ今般陸軍從泊場司令部ニ於テハ曩ニ水路告示第一四六號ニ掲ケタル濟物浦鐵地内ノ三沈船ニ毎夜紅燈ヲ掲ケテ其位置ヲ示明ス然レトモ時々燈火ノ滅スルコトアリ

第四二三項

朝鮮南岸 濟州島南東方淺水ノ發見
英國水路告示第三二號(明治三十七年一月)ニ轉載セル獨國政府告示ニ據レハ同國軍艦「テニス」艦長ハ濟州島ノ南東方約北緯三二度五二分東經一二七度五分ノ地ニ於テ十二尋底質灰色細沙ノ水深ヲ測得シ次テ約北緯三二度四六分東經一二七度二四分ノ地ニ於テ二十尋底質灰色細沙ノ水深ヲ測得シタリ

第四二四項

支那海 平島(Flat I.)南方淺灘ノ發見
英國水路告示第一〇號(明治三十七年一月)ニ據レハ平島ノ南東角ヨリ南七度西三ノ度ノ處ニ一淺灘アリ該灘ハ北東ノ南西ノ長半徑ニシテ周圍ハ十尋ヨリ深シ又該灘ハ其北方一徑半ニアル七尋點灘ト相連接スルモノノ如シ

第四二五項

偏差明治三十七年一度東
北緯九度九分 東經一一八度二五分半

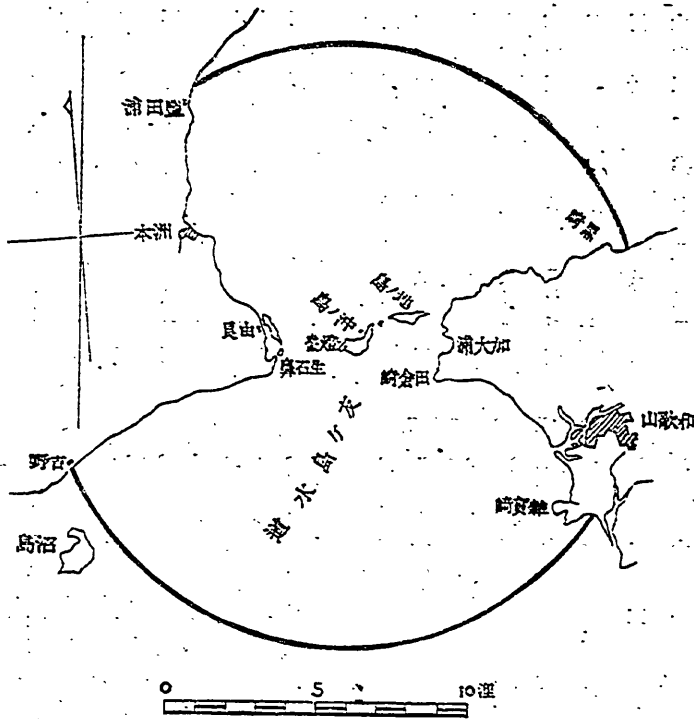
第四二六項

海軍省第五六七號第五四號英海軍海圖第二八七號第九六七號支那海水路告示第六卷上四九五頁ニ關係ス

第四二七項

海軍省第五六七號第五四號英海軍海圖第二八七號第九六七號支那海水路告示第六卷上四九五頁ニ關係ス

紀淡海峽防禦海面區域圖



海軍省告示第十一號
 明治三十七年二月十七日ヨリ左ノ區域ヲ紀淡海峽防禦海面ト定ム
 明治三十七年二月十七日 海軍大臣 男爵山本權兵衛
 津ノ島燈臺ヲ中心トシテ十海里ノ半徑ヲ以テ畫キタル想像圖内

海
軍

(複製)

○戰報 三十七年二月十七日官報

○旅順口外海戰死傷者 本月九日旅順口外ノ海戰ニ燒ケル負傷者ハ尙水左ノ如ク(以下略)

海軍三等水兵田中善七、海軍四等水兵松本源吉(以上斃手)

負傷者

初瀬航海長海軍中佐千坂智次郎、海軍一等兵曹梶藤次郎、海軍二等兵曹田中關次郎、海軍一等水兵田口善吉、海軍二等水兵北村萬助、同熊谷幸平(以上斃手)

○戰報 三十七年二月十八日官報

○旅順方面ノ戰報 一昨十六日午後十時十分東京著ニテ東郷聯合艦隊司令長官ヨリ左ノ電報アリ(以下略)

二月十三日驅逐艦ノ一隊大風雪ヲ冒レテ旅順口ニ向フ途上各艦見失ヒテ相分離セシモ司令艇速島及朝霧ノミ旅順口外ニ達シ朝霧ハ十四日午前三時港口ヲ偵察シ盛ニ陸岸砲臺及哨艇ノ砲火ヲ蒙リシニ拘ラス黒煙ヲ上ケ居ル一軍艦ニ對シ水雷ヲ發射シ且ツ敵ノ哨艇ヲ砲撃シテ無事歸リ來レリ速島ハ同日午前五時旅順口外ニ達シ港口ニ近接シ敵ノ二艦ヲ暗中ニ發見スルト同時ニ其砲火ヲ受ケタルモ直ニ其二軍艦ニ對シ水雷ヲ發射シ其爆發ヲ確認シテ無事歸來セリ速島、朝霧ノ勇敢ナル襲撃ノ效果ハ暗夜ノメメ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ寡クモ敵ヲシテ益々戰慄セシムルノ大功アリタルハ疑ナシト認

(備考) 本驅逐隊ノ司令ハ海軍中佐長井祥吉、速島艦長ハ海軍少佐竹内次郎ニシテ朝霧艦長ハ海軍少佐石川壽次郎ナリ

海軍

(複製)

（複製）

○ 傳 事 項 三十七年二月十七日官報

○外交ニ關スル事項 日露戰爭中局外中立ニ關シ帝國政府又ハ當該國駐節帝國公使ニ通知シ若クハ其適當ヲ公布シタル列國左ノ如シ

丁扶國政府ハ局外中立ヲ守ルベキ旨本月十二日在本邦同國外交事務官ヲ經テ帝國政府ニ通知セリ

和蘭國政府ハ局外中立ヲ守ルベキ旨本月十二日在本邦同國公使ヲ經テ帝國政府ニ通知セリ

暹羅國政府ハ本月十三日局外中立ヲ公布シタル旨同十四日在本邦同國公使ヲ經テ帝國政府ニ通知セリ

佛蘭西國政府ハ局外中立ヲ守ルベキ旨本月十二日在暹羅國公使ニ通知セリ

佛蘭西國政府ハ本月十二日局外中立ヲ公布シタル旨同十四日在暹羅國公使ニ通知セリ

西班牙國政府ハ本月十一日局外中立ヲ公布シタル旨在西帝國公使ヨリ報告アリ

北洋合衆國政府ハ本月十一日局外中立ヲ公布シタル旨在米帝國公使ヨリ報告アリ

大不列顛國政府ハ本月十一日局外中立ヲ公布シタル旨在同國帝國公使ヨリ報告アリ

伊太利國政府ハ本月十一日局外中立ヲ公布シタル旨在伊帝國公使ヨリ報告アリ

伯利西爾國政府ハ本月十三日局外中立ヲ公布シタル旨在伯帝國臨時代理公使ヨリ報告アリ

○高等捕獲帝檢所位置 高等捕獲帝檢所ハ其體ヲ東京市麹町區永田町一丁目二番地極密院事務所内ニ設ケス

海 軍

○戰報(三十七年三月三日)

○奉答文 去月二十日第四驅逐隊司令長井祥吉ニ賜リタル勅語ニ對スル奉答
左ノ如シ

第四驅逐隊カ旅順襲撃ニ對シ優渥ナル 勅語ヲ賜ハリ臣等感激ニ堪ヘス
益々奮勵 聖旨ニ酬ヒ奉ランコトヲ期ス臣等謹テ奏ス
又同二十八日聯合艦隊司令長官東郷平八郎ニ賜リタル勅語ニ對スル奉答左ノ
如シ(以上海軍省)

旅順口閉塞ノ舉ニ對シ優渥ナル 勅語ヲ賜ハリ臣等恐懼ニ堪ベス此舉完全
ニ其效ヲ奏セサリシハ深ク臣等ノ遺憾トスル所ナレトモ之ニ從軍シタル將
卒カ殆ント無事生還シタルニ至テハ只
陛下御威徳ノ擁護ニ依ルモノト一同感激セサル者ナシ
右謹テ奏ス

要

臣

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

海
軍

1394

函館戦時抄打見
函館海軍防衛部長 海軍中佐 森直

下関戦時抄打見
下関支隊 近井晴尚
山口陸軍防衛局長 海軍中佐 遠山政行

舞鶴戦時抄打見
舞鶴中隊 芳村之丞

舞鶴要塞司令部 陸軍少佐 中園隆

佐賀
佐賀中隊 浅田忠良

佐賀一
佐賀支隊 村田淳

鹿嶋
鹿嶋支隊 尾花吉之

鹿嶋一
鹿嶋支隊 中田时樹

横濱
横濱支隊 菅野八

横濱一
横濱支隊 松西篤文

青島
青島支隊 角田厚松

青島一
青島支隊 川村益直

基隆
基隆支隊 野間 嗣

基隆一
基隆支隊 由多夫 雄吉

長崎
長崎支隊 西村千里

長崎一
長崎支隊 海軍中佐 藤田清

第一艦隊			第二艦隊			第三艦隊			出雲			第一艦隊			第三艦隊			出雲			第一艦隊					
中將東郷平八郎			中將上村彦太郎			中將片岡七郎																				
少將東郷正路			少將三原重隆			少將松岡廣太郎			少將佐藤野矢			少將長谷川清			少將利根元二郎			少將松岡廣太郎			少將三原重隆			少將東郷正路		
千歳			千歳			千歳			千歳			千歳			千歳			千歳			千歳			千歳		
少佐			少佐			少佐			少佐			少佐			少佐			少佐			少佐			少佐		
島村速雄			有馬良橘			秋山真之			松村菊勇			永田素次郎			山路一善			竹内重利			塚本善五郎			齋藤七五郎		
大佐			中佐			少佐			大尉			少佐			大尉			少佐			大尉			少佐		
副官			副官			副官			副官			副官			副官			副官			副官			副官		
参謀			参謀			参謀			参謀			参謀			参謀			参謀			参謀			参謀		
参謀長			参謀長			参謀長			参謀長			参謀長			参謀長			参謀長			参謀長			参謀長		
大佐			中佐			大佐			中佐			大佐			中佐			大佐			中佐			大佐		
大佐			中佐			大佐			中佐			大佐			中佐			大佐			中佐			大佐		
大佐			中佐			大佐			中佐			大佐			中佐			大佐			中佐			大佐		
大佐			中佐			大佐			中佐			大佐			中佐			大佐			中佐			大佐		

補高等捕獲審檢所長官

(各通)

樞密顧問官子爵 田中不二麿
樞密顧問官男爵 西 徳三郎
判事 寺島 直
海軍中將 有馬 新一

法制局長官法學博士 井上 正一
判事法學博士 井上 正一

判事法學博士 高谷銈太郎

海軍少將 橋元 正明

外務省政務局長 山座圓次郎

樞密院書記官長 都筑 馨六
司法次官 石渡 敏一

補高等捕獲審檢所檢察官
補捕獲審檢所長官

(各通)

判事 榎室 誠

判事 米村 壯宣

判事 山口 武洪

外務省參事官 安藤峰一郎

海軍中佐 太田三次郎

法制局參事官 上山備之進

主理 相良 維男

檢事 水上長次郎
山本辰六郎

補捕獲審檢所評定官

(各通)

補捕獲審檢所檢察官(以上七期內閣)

補横須賀捕獲審檢所長官

判事 長谷川 喬

外務省参事官

安達峰一郎

法制局参事官

下岡 忠治

(各通)

判事

鈴木喜三郎

外務省参事官

倉知 健吉

海軍少佐

榎原忠三郎

海軍少佐

德田 道藏

補横須賀捕獲審檢所評定官

海軍省参事官

山川 端夫

(各通)

檢事

小林 芳郎

法制局参事官

内田 重成

海軍大佐男爵

柳田 國男

海軍省参事官

西 紳六郎

(各通)

外交官補

遠藤 源六

海軍省参事官

松田 道一

補佐世保捕獲審檢所評定官

主理

林 榮十郎

補佐世保捕獲審檢所檢察官

樞密院書記官

河村金五郎

補高等捕獲審檢所事務官

外務省参事官

安達峰一郎

補佐世保捕獲審檢所評定官

外務省参事官

安達峰一郎